

2024年度 彩の国連携力育成プロジェクト (saipe) 活動報告書

文部科学省 平成24（2012）年度
「大学間連携共同教育推進事業」から12年



埼玉県立大学



埼玉医科大学



城西大学



日本工業大学



彩の国埼玉県

目次

0	4大学連携教育プロジェクト（saipe）これまでの歩みの概略	1
I	2024年度“大学間連携事業実施体制”（saipeメンバー）	5
II	2024年度“大学間連携運営連絡会議”の開催実績	7
III	2024年度“彩の国連携科目”の実施報告	
1.	“彩の国連携科目”の4大学における対応科目	10
2.	“彩の国連携科目”の受講者数（2024年度実績）	12
3.	IPW演習 報告	
1)	IPW演習（緩和医療学）	13
2)	IPW演習（リハビリテーションと生活空間デザイン）	14
IV	4大学・埼玉県における連携教育の展開・発展・トピック	
1)	埼玉県立大学	16
2)	埼玉医科大学	18
3)	城西大学	19
4)	日本工業大学	20
5)	埼玉県	21
V	2024年度“彩の国連携力育成（人材育成事業）”の実績報告	
1.	職能団体との意見交換会（Sai_UPPs）	22
2.	緩和ケアIPW（多職種連携）研修会	24
3.	他職種を理解する“IPWカフェ”（2024年度：第17～19回）	26
4.	多職種理解の深化“キャラ化”ワークショップ手法の開発	29
5.	地域における連携力育成事業	31
VI	2024年度“学生交流・共同学習支援”の実績報告	
1.	リレー・フォー・ライフジャパン川越2024	32
2.	彩の国思春期研究会	33
3.	トークイベント	34
VII	学術活動の実績報告	
1.	日本保健医療福祉連携教育学会 第17回学術集会をall埼玉で開催	35
2.	学会発表、論文発表、講演等	36

4大学連携教育プロジェクト (saipe)

これまでの歩み

(概略)

専門職連携教育 (IPE : Interprofessional Education)

複数の領域の専門職が連携およびケアの質を改善するために、同じ場所でともに学び、お互いから学び合いながら、お互いのことを学びあうこと (2002年改訂)

専門職連携実践 (IPW : Interprofessional Work)

複数の専門職がそれぞれの知識と技術を提供しあい、相互に作用しつつ共通の目標達成を利用者ととともにめざす協働した活動

※ 英国専門職連携教育推進センター (Centre for the Advancement of Interprofessional Education ; 以下CAIPE) による定義

0 4大学連携教育プロジェクト（saipe）これまでの歩みの概略

平成24年度（2012年度）に文部科学省の大学間連携共同教育推進事業の採択を受け、埼玉県立大学、埼玉医科大学、城西大学、日本工業大学の県内4大学、およびステークホルダーとしての埼玉県が協定を締結し、「彩の国大学連携による住民の暮らしを支える連携力の高い専門職育成」（彩の国連携力育成プロジェクト）に取り組みました。

助成期間が終了した平成29年度（2017年度）以降は、本取り組みを継続的に実施するとともに、埼玉県における連携力育成に継続的かつ発展的に取り組むことで合意し、再度、5者間で協定を締結しました。再協定締結から8年、プロジェクト開始からですと12年（干支一回り）になります。

当初、本取り組み（通称：saipe）では、I 彩の国連携科目の共同開発・共同開講：4大学が連携した“連携力”育成教育（専門職連携教育：IPE）プログラムの確立、II 彩の国大学連携による教育システムの構築：教育及び研究上の人材交流と能力開発、取組内容の理論的評価、取組成果の広報啓発を目指し、彩の国連携科目の確立、大学間連携による共同開講方法の確立、IPEコンピテンシー・ルーブリックの検討などに取り組みました。

助成期間（5年間）終了後は、確立した大学間IPEプログラム（彩の国連携科目）の継続と発展を目指した事業（彩の国連携科目の連携教育に関する協定）、現職者を対象とした連携力育成（IPE）の開発・普及・発展を目指した相互協力による事業（相互協力・連携による人材育成に関する協定）に取り組んできました。

平成24年度 文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」採択

彩の国大学連携による住民の暮らしを支える連携力の高い専門職育成

通称：彩の国連携力育成プロジェクト（saipe）



4大学及び埼玉県による協定締結

- ①埼玉県立大学（保健医療福祉関連5学科4専攻）
- ②埼玉医科大学（医学科）
- ③城西大学（薬学科・薬科学科・医療栄養学科）
- ④日本工業大学（生活環境デザイン学科）
- ⑤埼玉県

※ 採択当時の学部・学科等の名称

少子高齢化の進行に伴う在宅医療・介護の需要拡大など、複雑化・多様化する住民ニーズに対応するため、「地域住民の暮らしの課題を、多職種の連携により発見・解決できる人材」を、埼玉県立大学・埼玉医科大学・城西大学・日本工業大学の4大学および埼玉県が連携協働して育成しようとする取組。

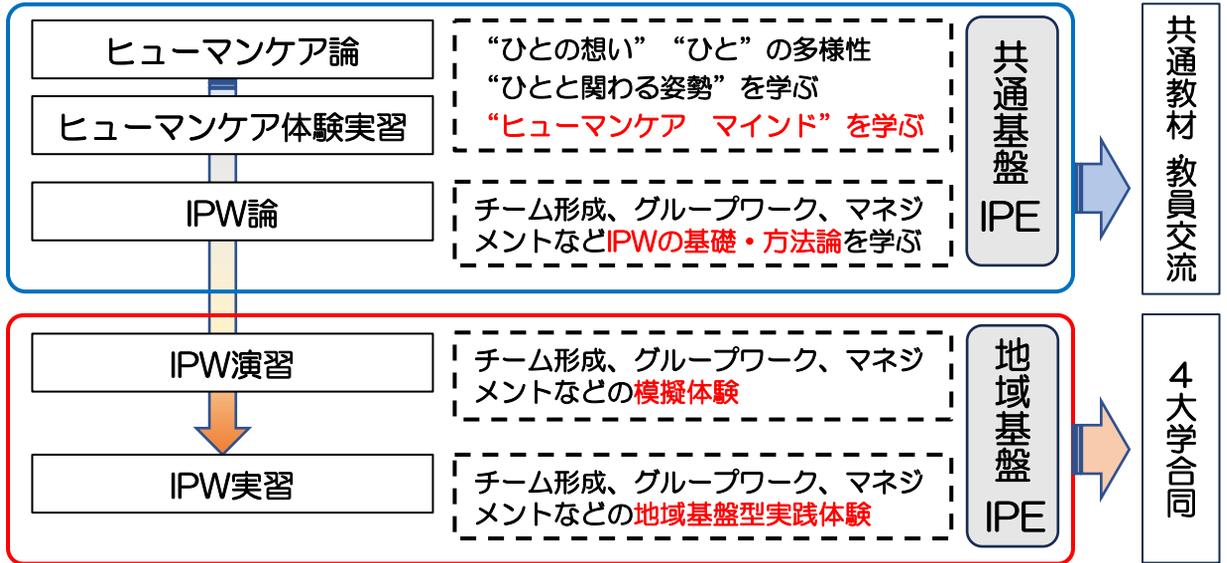
I 彩の国連携科目の共同開発・共同開講

医学・薬学・保健医療福祉・建築分野の大学が連携した専門職連携教育（Interprofessional Education：IPE）プログラムの開発

II 彩の国大学連携による教育システムの構築

彩の国連携科目の持続的な協働展開のための“教育及び研究上の人材交流と能力開発”“取組内容の理論的評価”“取組成果の広報啓発”

<彩の国連携科目>



<共同開講の授業形態>

- (1) 4大学の学生が同じ場で共に学ぶ、4大学教員による共同授業
- (2) 各大学の学生が各大学においてIPEの共通教育目標のもと、共通教材を使用して学ぶ、4大学教員による共同授業
- (3) 各大学の学生が各大学においてIPEの共通教育目標のもと、共通教材を使用して学ぶ、各大学の教員による授業

<地域基盤型IPWコンピテンシー（暫定版）>

(1) ヒューマンケアマインド

①人間・地域・社会について関心を持つ、②ケアについての基本的な知識を身につけている、③自己と他者に関心を持ち、自他の多様性・個別性・具体性（思い、個性、状況、環境等）を理解する、④相手と対等な立場で、相手を尊重し、相手に配慮した態度や行動をとることができる、⑤相手の変容から自分の喜びを感じることができる

(2) 専門性を志向し柔軟に発揮する力

①自分の専門性に社会から求められる知識・技能・態度、価値観を身につけている、②（求められている）自分の専門性に基づいて、考え、行動できる、③自分の専門性の向上に意欲を持つ、④自他の専門性を理解し、その限界と可能性を認識する、⑤専門性にとられない柔軟なものの見方ができる、⑥自他の専門性の重複部分、カバーされていない部分について、自らの役割を判断して行動する

(3) コミュニケーション能力

①コミュニケーションをとるために必要な基礎的な知識を身につけている、②自分の考えや思いを相手に伝えることができる、③相手が発している思いや考えに気づき、受け止めることができる、④相手と一緒にメッセージの内容の理解が合致しているか確認する、⑤納得するまで対話を重ねる

(4) チームを形成し行動する力

①チームで活動するために必要な知識や態度を身につけている、②情報（リスクを含む）を共有するための行動がとれる、③チームとして合意するために、メンバーと議論する、④チームの目標を共有し達成するための行動がとれる、⑤チームを俯瞰して状況を把握し、それを踏まえた行動ができる

(5) 自己とチームをリフレクションする力

①リフレクションのために必要な知識と態度を身につけている、②IPWにおける自分の言動・生じた思いや感情について振り返り、自らの成果や課題に気づく、③IPWにおけるチーム活動について、チームメンバーと共に振り返り、チーム活動の成果や課題に気づく、④IPWについての振り返りを今後の自身の行動に生かす

<ループリック（暫定版）>

	ｽﾀｰﾄ	1	2	3	4	5
ドケアヒューマン	相手と重なるべきを考慮しながら行動する	人はそれぞれに支生と役割を担っている	ケアについて基本的な知識を持つ人、地域、社会に関心を持つ相手に配慮した行動をとることができる	他の個性、多様性、重要性を尊重し、個性に合った行動をとることができる	他の個性、多様性、具体性を理解し、それと尊重した行動をとることができる	相手が選んだ人生を受け入れて、一緒に考え続けることができる
専門性を発揮する力	専門性を発揮し、自己を判断して行動する	自らの専門分野を学ぼうとする意欲がある	自分の専門性に気づき、求められていることを理解する	他の専門性を理解し、自分の専門性を基として行動する	他の専門性の限界と可能性を理解し、自らの役割を理解し行動する	自らの専門性を柔軟に発揮し、専門性の維持向上のために学び続ける
コミュニケーション能力	相手と意思を伝え、理解し、受け合うことができる	挨拶ができる	相手のメッセージを五感を使って感じ取り表現する コミュニケーションが大事だと知っている（知識） コミュニケーションの基本的な知識を知っている（知識）	相手の背景を理解し、メッセージを込めて発信する	相手の発するメッセージを理解し、その意図を確認し、お互いの理解を深めることができる	相手のメッセージを受け取り、理解し、受け合うことができる
チームを形成し行動する力	チームの意義を理解し、行動する力	グループに参加できる	グループの一員として自己の役割を担うことができる チームを作る過程を知っている	チームメンバーの意見の相違を乗り越えようとする チームのルールを決める	チーム内の意見の相違を乗り越えることができる	チームの目標達成のために、意見の相違を乗り越え、適切な行動をとることができる
自己とチームをリンクさせる力	自己の振り返り、活動の振り返り、今後の行動の振り返り	自己の振り返り、活動の振り返り、今後の行動の振り返り	自己とチームの振り返りが大事である（知識） 自己の振り返り、活動の振り返り、今後の行動の振り返り	自己とチームの振り返りが大事である（知識） 自己の振り返り、活動の振り返り、今後の行動の振り返り	自己とチームの振り返りが大事である（知識） 自己の振り返り、活動の振り返り、今後の行動の振り返り	チームメンバーとともにIPWを振り返り、（チームと自己の課題）自ら行動を変えることができる

<“彩の国連携科目”への各大学対応科目（2016当時）、およびコンピテンシーとの関係>

	科目名	大学	学年	時期	選択必修	教育の場	コンピテンシー				
							ヒューマンケア	コミュニケーション	専門性	チーム形成	省察
ヒューマンケア論	① ヒューマンケア論	埼玉県立大学	1年	前期	必修	学内	▲	▲	▲	▲	▲
	② フレッシュマンゼミナー	城西大学	1年	前期	必修	学内					
	③ フレッシュマンゼミⅠ、Ⅱ	日本工業大学	1年	前期	必修	学内					
	④ 社会医学	埼玉医科大学	1年	通年	必修	学内					
ヒューマンケア体験実習	⑤ ヒューマンケア体験実習	埼玉県立大学	1年	集中	必修	地域					
	⑥ ケア空間体験実習	日本工業大学	1年	集中	選択	地域					
	⑦ 薬学概論（早期体験実習）	城西大学	1年	前期	必修	地域					
	⑧ 臨床入門実習1	埼玉医科大学	1年	後期	必修	地域					
	⑨ 臨床入門実習2	埼玉医科大学	2年	集中	必修	地域					
IPW論	⑩ IPW論	埼玉県立大学	2年	前期	必修	学内					
	⑪ 医学概論（地域基盤型IPW論）	埼玉医科大学	3年	集中	必修	学内					
	⑫ ユニバーサルデザイン論	日本工業大学	2年	後期	選択	学内					
	⑬ 臨床入門実習2	埼玉医科大学	2年	集中	必修	地域					
	⑭ 臨床入門実習3	埼玉医科大学	3年	集中	必修	院内					
IPW演習	⑮ IPW演習	埼玉県立大学	3年	後期	必修	学内					
	⑯ IPW演習（緩和医療学） ・医学概論	★城西大学 埼玉医科大学 埼玉県立大学 日本工業大学	3年 4年	集中	選択	学内					
	⑰ IPW演習（リハビリテーションと生活空間デザイン）	★日本工業大学 埼玉県立大学	2年	後期	必修・選択	学内					
	⑱ 医学概論	埼玉医科大学	3年	集中	選択・選択必修	学内					
IPW実習	⑲ IPW実習① ・課外学習プログラム	★埼玉県立大学 埼玉医科大学 城西大学 日本工業大学	3・4・5年	集中	必修・選択必修・選択	地域					
	⑳ IPW実習②・社会医学実習	★埼玉県立大学 埼玉医科大学	4年	集中	必修・選択必修	地域					

平成28年度
第2回 彩の国大学連携学長会議
(平成29年1月25日)

補助期間終了後の
“相互協力・連携に関する協定”を締結



<彩の国連携科目の連携教育に関する協定書>

**埼玉県立大学、埼玉医科大学、城西大学、日本工業大学及び埼玉県の
相互協力・連携に関する協定書**

埼玉県立大学、埼玉医科大学、城西大学、日本工業大学（以下「構成大学」という。）及び埼玉県（以下「県」という。）は、相互協力・連携に関する基本的な事項について、次のとおり協定を締結する。

（目的）
第1条 この協定は、構成大学及び県の相互の密接な協力と連携により、保健医療福祉分野を中心とした住民の暮らしを支える専門職連携教育の発展と連携力のある人材育成に資することを目的とする。

（内訳）
第2条 構成大学及び県は、前条の目的を達成するための専門分野等に応じて、次に掲げる事項の協力・連携に努める。
（1）大学間連携共同教育推進事業で構築した彩の国連携科目の運営
（2）保健医療福祉分野等における人材育成に資すること
（3）その他、目的を達成するために必要な事項

（協定期間）
第3条 本協定書の有効期間は、締結の日から起算して1年間とする。ただし、協定書の有効期間満了の日の30日前までは、構成大学及び県のいずれかから解除の申し出がない場合は、有効期間満了の日の翌日から更に1年間有効とする。その後においてもまた同様とする。

（その他）
第4条 この協定に定めのない事項及びこの協定に抵触が生じたときは、別途、構成大学及び県が協議し、決定する。

この協定を証するため、本書5通を作成し、構成大学及び県が各1通を保有する。

平成29年1月25日

埼玉県立大学 学長 三浦 宜彦	
埼玉医科大学 学長 別所 正義	
城西大学 学長 白崎 謙	
日本工業大学 学長 成田 健	
埼玉県 知事 上田 清孝	

<相互協力・連携による人材育成に関する協定書>

**埼玉県立大学、埼玉医科大学、城西大学、日本工業大学の
彩の国連携科目に関する協定書**

埼玉県立大学、埼玉医科大学、城西大学、日本工業大学（以下「構成大学」という。）は、相互の交流と教育の充実・発展を目的として次の事項について合意したので、本協定書を締結する。

（總旨）
第1条 構成大学は、「ヒューマンケア論」、「ヒューマンケア体験実習」、「IPW論」、「IPW演習」、「IPW実習」を彩の国連携科目として定め、その共同開講について、十分に協議し適切な科目運営がなされるよう努める。なお、前述の科目名は構成大学で共通した呼称であり、各大学における実際の科目名はそれぞれが定める。

（科目の運営方法）
第2条 彩の国連携科目の運営に際しては、担当大学が構成大学と協議の場を設け、教員の協力体制、学生の履修方法、教材や教育方法、成績評価の方法等を定める。
2 「IPW実習」の実施にあたっては、埼玉県立大学が担当となり、構成大学と協議の上、各大学で参加を希望する学生が、科目運営上相互に支障のない限り受講できるように努める。
3 「IPW演習（緑と医療学）」の実施にあたっては、城西大学が担当となり、構成大学と協議の上、各大学で参加を希望する学生が、科目運営上相互に支障のない限り受講できるように努める。
4 「IPW演習（リハビリテーションと生活空間デザイン）」の実施にあたっては、日本工業大学が担当となり、構成大学と協議の上、各大学で参加を希望する学生が、科目運営上相互に支障のない限り受講できるように努める。
5 上記以外の「ヒューマンケア論」、「ヒューマンケア体験実習」、「IPW論」、「IPW演習」については、構成大学の協議によって教材や教育方法の共通化に努め、それぞれの大学において実施する。

（学生の身分）
第3条 彩の国連携科目を受講する学生の身分は、それぞれの大学に所属する。

（履修期間）
第4条 彩の国連携科目の履修期間は、構成大学による協議の上決定する。

（受入れ学生数）
第5条 彩の国連携科目の受講学生数は、構成大学による協議の上決定する。

（履修方法）
第6条 彩の国連携科目の履修方法は、構成大学がそれぞれ定める。

（成績の評価）
第7条 構成大学は、彩の国連携科目を受講した学生の成績評価を、各構成大学から提供された資料に基づいて行う。
2 構成大学は、彩の国連携科目の成績評価に必要な資料を相互に提供する。

（授業料等）
第8条 彩の国連携科目の受講に際して、学生から特別な授業料は徴収しない。
2 学生の実習の参加に必要な交通費、宿泊費の取扱いは、構成大学がそれぞれ定める。

（実習施設への謝金）
第9条 彩の国連携科目のうち、「IPW実習」を行う施設に支払う謝金については、構成大学がそれぞれの受講学生に係る分を負担する。

（免責）
第10条 この協定の履行に必要な事項は、別に免責を定める。

（有効期間）
第11条 この協定は、平成29年4月1日から施行し、施行の日から起算して1年間有効とする。ただし、協定書の有効期間満了の日の30日前までは、構成大学のいずれかから解除の申し出がない場合は、有効期間満了の日の翌日から更に1年間有効とする。その後においてもまた同様とする。

（その他）
第12条 この協定に定めのない事項については、構成大学において協議するものとする。

この協定書の成立を証するため、協定書4通を作成し、構成大学が各1通を保有する。

平成29年1月25日

埼玉県立大学 学長 三浦 宜彦	
埼玉医科大学 学長 別所 正義	
城西大学 学長 白崎 謙	
日本工業大学 学長 成田 健	

2024年度
4大学連携教育プロジェクト (saipe)
報告

I 2024年度“大学間連携事業実施体制” (saipeメンバー)

<埼玉県立大学>

大学組織	saipeメンバー
専門職連携教育研修センター (IPEセンター)	田口 孝行 (センター長、学長補佐、理学療法学科 教授) 國澤 尚子 (センター員、看護学科 教授) 善生 まり子 (センター員、看護学科 教授) 吉村 基宜 (リーダー) (センター員、看護学科 助教) 井上 和久 (センター員、理学療法学科 准教授) 押野 修司 (センター員、作業療法学科 准教授) 鳶末 恵子 (センター員、社会福祉子ども学科 (社会福祉) 准教授) 小川 孔美 (センター員、社会福祉子ども学科 (社会福祉) 准教授) 丸山 優 (センター員、看護学科 准教授) 柴田 貴美子 (センター員、作業療法学科 准教授) 井原 寛子 (センター員、健康開発学科 (検査) 教授) 岡田 茂治 (センター員、健康開発学科 (検査) 准教授) 朝日 雅也 (専門職連携コーディネーター、埼玉県立大学名誉教授)
IPE科目担当者等	高橋 恵子 (ヒューマンケア体験実習担当、看護学科 教授) 渋谷 えり子 (IPW実習主任科目責任者、看護学科 准教授) ※小川 孔美 (IPW論科目担当)、鳶末 恵子 (IPW演習科目担当) 井上 和久 (IPE科目担当者会長、IPW実習科目担当) 國澤 尚子 (IPW実習統括科目責任者)
事務局	中野 真理子 (専門職連携教育研修センター 担当部長) 芦沢 達也 (専門職連携教育研修センター 主任) 篠原 美也子 (企画・情報担当 担当部長) 庄子 千尋 (企画・情報担当 担当課長) 鈴木 祥平 (企画・情報担当 主任) 吉岡 みどり (企画・情報担当 事務) (島田 春奈：教務・入試担当 主事)

<埼玉医科大学>

大学組織	saipeメンバー
医療人育成支援センター 地域医学推進センター (以下「地域医学推進センター」と略)	竹内 勤 (学長) 森 茂久 (統括責任者) (医学部長、副学長、医学教育センター長) 三村 俊英 (統括担当者) (副学長、医療人育成支援センター長) 柴崎 智美 (リーダー) (地域医学推進センター長、医学教育学 教授) 米岡 裕美 (サブリーダー) (医学部教養教育 准教授) 金田 光平 (サブリーダー) (医学教育センター 助教) 高橋 幸子 (地域医学推進センター 助教) 井上 直子 (医学教育センター 准教授) 小池 啓子 (医学教育センター 助教) 石橋 敬一郎 (医学部医学教育学 准教授) 杉山 智江 (医学教育センター 助教) 宮崎 孝 (医学部社会医学 客員准教授) 荒木 隆一郎 (医学教育センター 非常勤講師) 本橋 千恵美 (医学教育センター 非常勤講師) 植村 真喜子 (地域医学推進センター 助手)
事務局	江口 幹也 (大学事務部長) 近藤 有寛 (大学事務部 学務課長) 長島 公子 (医学教育センター 事務) 鴫田 隆 (地域医学推進センター 事務)

<城西大学>

大学組織	saipeメンバー
薬学部 saipe委員会	夏目 秀視（統括責任者）（薬学部長（薬学科 教授）） 上田 秀雄（統括担当者）（薬学科 教授） 白幡 晶（学長補佐） 古屋 牧子（リーダー）（医療栄養学科 准教授） 大嶋 繁（サブリーダー）（薬学科 教授） 村田 勇（サブリーダー）（薬学科 助教） 小糸 寿美（サブリーダー）（薬科学科 准教授） 細谷 治（薬学科 客員教授） 堀井 徳光（薬学科 助教） 矢島 克彦（薬学部薬科学科 助教） 君羅 好史（医療栄養学科 准教授） 五十嵐 庸（医療栄養学科 准教授）
事務局	高尾 浩一（地域連携センター所長（薬科学科 教授）） 庭田 文近（地域連携センター副所長（現代政策学部 教授）） 奈良 博恵（地域連携センター事務局 事務長） 渡辺 沙織（地域連携センター事務局） 春原 若菜（地域連携センター事務局 IPE担当）

<日本工業大学>

大学組織	saipeメンバー
（日本工業大学）	竹内 貞雄（総括責任者）（学長） 勝木 祐仁（総括担当者）（建築学科 教授） 野口 祐子（建築学科 教授） ※その他、本事業の取り組みの展開により他教員を追加・変更する
事務局	荒川 俊也（教育研究推進室 室長） 津留 広明（教育研究推進室 課長） 沖田 次朗（教育研究推進室 主任） 三本松陽子（教育研究推進室 事務）

<埼玉県>

組織	saipeメンバー
保健医療部保健医療 政策課	阪下 竜也（保健所・衛生研究所・県立大学担当 主幹） 堀本 健一（保健所・衛生研究所・県立大学担当 主査）

Ⅱ 2024年度“大学間連携運営連絡会議”の開催実績

第1回 大学間連携運営連絡会議

日 時：2024年4月18日（木）17：30～20：00

場 所：webミーティング（Zoom）

担 当：埼玉県立大学

出席者：埼玉県立大学（9名）田口孝行、國澤尚子、高橋恵子、渋谷えり子、嵩末恵子、吉村基宜、芦沢達也、篠原美也子、鈴木祥平 / 埼玉医科大学（7名）柴崎智美、米岡裕美、井上直子、金田光平、小池啓子、長島公子、鴫田 隆 / 城西大学（9名）白幡 晶、細谷 治、古屋牧子、小糸寿美、村田 勇、堀井徳光、五十嵐 庸、奈良博恵、春原若菜 / 日本工業大学（4名）勝木祐仁、津留広明、沖田次朗、三本松陽子 / 埼玉県（1名）阪下竜也

<議題> (1) 緩和ケアIPW研修会について（城西大：細谷・堀井、県大：田口）

(2) 職能団体と4大学の意見交換会について（医大：柴崎）

<報告> (1) 2024年度saipe活動計画について（県大：田口）

(2) 多職種連携による連携力育成ワークショップor研修会の検討（県大：田口、医大：柴崎・米岡）

(3) 日本保健医療福祉連携教育学会（JAIBE）について（県大：田口）

(4) 2024年度専門職連携を学ぶ講座について（県大：田口）

第2回 大学間連携運営連絡会議

日 時：2024年6月20日（木）17：30～20：00

場 所：webミーティング（Zoom）

担 当：埼玉医科大学

出席者：埼玉県立大学（12名）田口孝行、國澤尚子、高橋恵子、善生まりこ、渋谷えり子、井上和久、押野修司、小川孔美、嵩末恵子、吉村基宜、篠原美也子、鈴木祥平 / 埼玉医科大学（8名）柴崎智美、米岡裕美、井上直子、高橋幸子、金田光平、小池啓子、長島公子、鴫田 隆 / 城西大学（7名）古屋牧子、小糸寿美、村田 勇、君羅好史、五十嵐 庸、奈良博恵、春原若菜 / 日本工業大学（3名）勝木祐仁、野口祐子、三本松陽子、 / 埼玉県（3名）阪下竜也、荒井今日子、守 菜々子

<議題> (1) 熱中症予防対策について（県の取組紹介）（埼玉県：荒井・守）

(2) saipe事業の県庁内への周知について（埼玉県：阪下）

(3) RFLジャパン川越2024について（城西大：古屋・五十嵐）

(4) キャラ化WSの研究使用の手続き等について（医大：米岡）

(5) 日本医療福祉連携教育学会（JAIBE）について（県大：田口・吉村、医大：金田）

<報告> (1) 職能団体と4大学の意見交換会について（医大：柴崎）

<その他> (1) 大学間連携事業実施体制について（城西大：古屋）

第3回 大学間連携運営連絡会議

日 時：2024年8月5日（月）18：00～20：00

場 所：埼玉県立大学（オンライン併用）

担 当：埼玉県立大学

出席者：埼玉県立大学（12名）田口孝行、國澤尚子、高橋恵子、善生まりこ、渋谷えり子、井上和久、小川孔美、嵩末恵子、吉村基宜、芦沢達也、篠原美也子、鈴木祥平 / 埼玉医科大学（7名）柴崎智美、米岡裕美、井上直子、金田光平、小池啓子、長島公子、鴫田 隆 / 城西大学（7名）古屋牧子、小糸寿美、村田 勇、堀井徳光、五十嵐 庸、奈良博恵、春原若菜 / 日本工業大学（5名）勝木祐仁、野口祐子、津留広明、沖田次朗、三本松陽子 / 埼玉県（1名）阪下竜也

<議題> (1) 緩和ケアIPW研修会について（城西大：細谷・堀井、県大：田口）

(2) リレー・フォー・ライフ・ジャパン川越について（城西大：古屋・五十嵐）

(3) 職能団体と4大学の意見交換会について（医大：柴崎）

<報告> (1) 日本医療福祉連携教育学会（JAIBE）について（県大：田口）

(2) IPW実習報告会について（県大：渋谷）

(3) IPWカフェについて（医大：米岡、県大：國澤）

<その他> (1) 大学間連携事業実施体制について（県大：吉村）

第4回 大学間連携運営連絡会議

日時：2024年10月17日（木）17：30～20：00

場所：webミーティング（Zoom）

担当：日本工業大学

出席者：埼玉県立大学（12名）田口孝行、國澤尚子、善生まり子、丸山優、吉村基宜、柴田貴美子、嵩末恵子、岡田茂治、朝日雅也、高橋恵子、渋谷えり子、芦沢達也 / 埼玉医科大学（6名）柴崎智美、高橋幸子、金田光平、小池啓子、長島公子、鍋田 隆 / 城西大学（8名）白幡 晶、古屋牧子、小糸寿美、村田 勇、君羅好史、五十嵐 庸、奈良博恵、春原若菜 / 日本工業大学（5名）勝木祐仁、野口祐子、津留広明、沖田次朗、三本松陽子 / 埼玉県（1名）阪下竜也 / 立正大学（1名）新井利民

- <議題> (1) 職能団体と4大学の意見交換会について（医大：柴崎）
(2) IPW演習（緩和医療学）について（城西大：細谷・村田）
(3) 意見交換会への埼玉建築士会メンバーの参加について（日工大：勝木）
(4) 「ヒューマンケア論」のビデオ教材の更新について（日工大：勝木）
- <報告> (1) 日本保健医療福祉連携教育学会（JAIBE）について（県大：田口）
(2) RFLジャパン川越2024について（城西大：古屋・五十嵐）
(3) 緩和ケアIPW研修会について（城西大：細谷・堀井、県大：田口）
(4) IPWカフェについて（医大：米岡）
(5) IPW実習導入ワーク_生活環境デザイン演習について（医大：柴崎）
(6) IPW実習について（県大：渋谷）
(7) 共同学習事業（3月）について（日工大：勝木）

第5回 大学間連携運営連絡会議

日時：2024年11月21日（木）17：30～20：00

場所：webミーティング（Zoom）

担当：城西大学

出席者：埼玉県立大学（7名）田口孝行、善生まり子、渋谷えり子、井上和久、小川孔美、吉村基宜、芦沢達也 / 埼玉医科大学（7名）柴崎智美、米岡裕美、井上直子、高橋幸子、小池啓子、長島公子、鍋田 隆 / 城西大学（7名）古屋牧子、小糸寿美、村田 勇、堀井徳光、五十嵐 庸、奈良博恵、春原若菜 / 日本工業大学（4名）勝木祐仁、野口祐子、津留広明、三本松陽子、 / 埼玉県（1名）阪下竜也

- <議題> (1) IPW演習（緩和医療学）について（城西大：細谷・村田）
(2) 職能団体と4大学の意見交換会について（医大：柴崎）
- <報告> (1) 日本医療福祉連携教育学会（JAIBE）について（県大：田口）
(2) IPWカフェについて（医大：米岡）
(3) IPW演習（リハビリテーションと生活空間デザイン）（日工大：野口・県大：田口）
(4) 認知症まちづくりの活動について（地域）（日工大：勝木・野口）
(5) 共同学習事業（3月）について（日工大：勝木）

第6回 大学間連携運営連絡会議

日時：2025年1月16日（木）17：30～20：00

場所：webミーティング（Zoom）

担当：埼玉医科大学

出席者：埼玉県立大学（9名）田口孝行、國澤尚子、高橋恵子、善生まり子、渋谷えり子、押野修司、小川孔美、吉村基宜、芦沢達也、 / 埼玉医科大学（7名）柴崎智美、米岡裕美、井上直子、高橋幸子、金田光平、小池啓子、長島公子 / 城西大学（5名）古屋牧子、小糸寿美、五十嵐 庸、奈良博恵、春原若菜 / 日本工業大学（2名）勝木祐仁、三本松陽子 / 埼玉県（1名）阪下竜也

- <議題> (1) IPWカフェについて（日工大：勝木）
(2) 2025年度活動計画（案）について（県大：田口）
(3) saipe活動報告書の作成方針について（県大：田口・医大：柴崎）
(4) 教育プログラム集について（医大：柴崎）
- <報告> (1) 職能団体と4大学の意見交換会について（医大：柴崎）

第7回 大学間連携運営連絡会議

日時：2025年2月20日（木）17：30～20：00

場所：webミーティング（Zoom）

担当：城西大学

出席者：埼玉県立大学（5名）田口孝行、國澤尚子、善生まり子、吉村基宜、芦沢達也 / 埼玉医科大学（7名）柴崎智美、米岡裕美、井上直子、高橋幸子、金田光平、小池啓子、長島公子 / 城西大学（6名）古屋牧子、村田 勇、君羅好史、五十嵐 庸、奈良博恵、春原若菜 / 日本工業大学（5名）勝木祐仁、野口祐子、津留広明、沖田次朗、三本松陽子 / 埼玉県（2名）阪下竜也、伊藤 愛

- <議題> (1) 2025年度活動計画（案）について（県大：田口）
(2) saipe活動報告書の作成方針について（県大：田口・医大：柴崎）
- <報告> (1) 埼玉県健康福祉研究発表会について（埼玉県：伊藤・阪下）
(2) IPW演習（緩和医療学）について（城西大：村田）
(3) IPWカフェについて（日工大：勝木・城西大：古屋）
(4) 共同学習事業について（日工大：勝木）
(5) 彩の国連携科目の受講者数について（県大：芦沢）
- <その他> (1) 令和6年度 埼玉・群馬未来医療人育成シンポジウムについて（医大：柴崎）

第8回 大学間連携運営連絡会議

日時：2025年3月20日（木）17：30～20：00

場所：webミーティング（Zoom）

担当：日本工業大学

出席者：埼玉県立大学（6名）田口孝行、國澤尚子、善生まり子、高橋恵子、渋谷えり子、吉村基宜 / 埼玉医科大学（7名）柴崎智美、米岡裕美、井上直子、高橋幸子、金田光平、小池啓子、長島公子 / 城西大学（6名）細谷 治、古屋牧子、小糸寿美、五十嵐 庸、奈良博恵、春原若菜 / 日本工業大学（5名）勝木祐仁、野口祐子、津留広明、沖田次朗、三本松陽子、 / 埼玉県（3名）田中陽子、池田有沙、阪下竜也

- <議題> (1) 2025年度活動計画（案）について（県大：田口）
(2) saipe活動報告書について（県大：田口・医大：柴崎）
(3) 職能団体と4大学の意見交換会について（医大：柴崎）
(4) 緩和ケアIPW研修会について（城西大：細谷・県大：田口）
- <報告> (1) 大学等におけるがん教育の推進について（埼玉県：田中・池田・阪下）
(2) IPWカフェについて（日工大：勝木・城西大：古屋）
(3) IPW演習（リハビリテーションと生活空間デザイン）について（日工大：野口・県大：田口）
(4) 共同学習事業（3月）について（日工大：勝木）



オンラインによる大学間連携運営連絡会議

Ⅲ 2024年度“彩の国連携科目”の実施報告

1. “彩の国連携科目”の4大学における対応科目

1) ヒューマンケア論

大学	対応科目	開講年次、実施回数、実施日程
埼玉県立大学	ヒューマンケア論	1年前期、必修、15回（4～8月）
埼玉医科大学	地域医療とチーム医療	1年通年、必修、16回、（4～1月）
城西大学	フレッシュマンセミナー（薬学）B	1年秋学期、必修、5回（9月～12月）
	薬学実習C（キャリア形成系）	2年春学期、必修、4回（6月）
日本工業大学	ヒューマンケアと生活空間	1年秋学期、必修、14回（9～1月）

※（教員交流による大学間共同教育）

埼玉医科大学『Pre-CC2-1(地域医療実習)』導入ワーク（4年、必修、10月）

非常勤講師：勝木祐仁（日本工業大学）

2) ヒューマンケア体験実習

大学	対応科目	開講年次、実施回数、実施日程
埼玉県立大学	ヒューマンケア体験実習	1年後期、必修、4日間（9月20日～27日）
埼玉医科大学	臨床入門1	1年通年、必修、24回（4～1月）
	臨床入門2	2年通年、必修、15回（5～12月）
城西大学	薬学概論（早期体験実習）	1年春学期、必修、1日間
	医療栄養学概論演習	2年秋学期、必修、1日間
日本工業大学	ケア空間体験実習	1年秋学期、選択、2日間+オリ+リフレクション

3) IPW論

大学	対応科目	開講年次、実施回数、実施日程
埼玉県立大学	IPW論	2年後期、必修、8回（9～1月）
埼玉医科大学	地域医療とチーム医療（地域基盤型IPW論）	2年通年、必修、16回（4～1月）
	Pre-CC1-2（他職種業務見学実習、看護業務体験実習）	3年通年、必修、14回（10～11月）
城西大学	薬学実習C（キャリア形成系）	2年春学期、必修、6回（6～7月）
	薬学総合演習A	2年秋学期、必修、2回（9～10月）
	薬学総合演習B	3年秋学期、必修、2回（9～10月）
日本工業大学	協働デザインの手法	2年秋学期、選択、14回（9～1月）

4) IPW演習

大学	対応科目	開講年次、実施回数、実施日程
埼玉県立大学	IPW演習	3年前期、必修、8回（9～1月）

(1) IPW演習（緩和医療学）

11月29日（金）13：30～17：00 会場：城西大学

大学	対応科目	開講年次、実施回数、実施日程
城西大学	緩和医療学	3・4年、選択
埼玉医科大学	地域医療とチーム医療(IPW演習)	3年
埼玉県立大学	地域理学療法学実習(理学療法学科)	3年前期、必修、3回（11月）
日本工業大学	※参加者募集	不問

(2) IPW演習（リハビリテーションと生活空間デザイン）

12月7日（土）12:30～17:00 会場：日本工業大学

大学	対応科目	開講年次、実施回数、実施日程
日本工業大学	福祉空間の設計	2年秋学期、選択
埼玉県立大学	地域理学療法学実習(理学療法学科)	3年前期、必修、3回（11月）

5) IPW実習

- ・オリエンテーションⅠ：8月5日(月)
 - ・オリエンテーションⅡ：IPW実習①（8月22日（木））／IPW実習②（9月26日（木））
 - ・IPW実習①：8月27日(火)～30日(金)
 - ・IPW実習②：9月30日(月)～10月3日(木)
- ※教員FT説明会：5月27日（月） / 施設FT説明会：6月3日（月）

大学	対応科目	開講年次、実施回数、実施日程
埼玉県立大学	IPW実習①	4年後期、必修、4日間(8月27日～30日)
	IPW実習②	4年後期、必修、4日間(9月30日～10月3日)
埼玉医科大学	Pre-CC2-1(地域医療実習)	4年、選択必修、4日間(9月30日～10月3日)
城西大学	※参加者募集	薬学科4,5年生、薬科学科3年生、 医療栄養学科3年生（8月27日～30日）
日本工業大学	専門職連携実習	3年春学期、選択、4日間（8月27日～30日）

2. “彩の国連携科目”の受講者数（2024年度実績）

	埼玉県立大学	埼玉医科大学	城西大学	日本工業大学	計
ヒューマンケア論	428名	135名	333名	63名	959名
ヒューマンケア 体験実習	411名	276名	234名	16名	937名
IPW論	420名	312名	367名	28名	936名
IPW演習	455名	464名	17名	23名	959名
IPW実習	420名	31名	9名	10名	470名

（参考）“彩の国連携科目”の受講者数（2023年度実績）

	埼玉県立大学	埼玉医科大学	城西大学	日本工業大学	計
ヒューマンケア論	423名	141名	388名	55名	1,007名
ヒューマンケア 体験実習	406名	272名	267名	12名	957名
IPW論	416名	177名	579名	14名	1,186名
IPW演習	466名	139名	32名	25名	664名
IPW実習	410名	129名	18名	10名	567名

（参考）“彩の国連携科目”の受講者数（2022年度実績）

	埼玉県立大学	埼玉医科大学	城西大学	日本工業大学	計
ヒューマンケア論	425名	134名	407名	54名	1,010名
ヒューマンケア 体験実習	406名	273名	312名	11名	1,002名
IPW論	425名	182名	537名	14名	1,158名
IPW演習	462名	137名	25名	17名	641名
IPW実習	420名	146名	19名	13名	598名

（参考）“彩の国連携科目”の受講者数（2021年度実績）

	埼玉県立大学	埼玉医科大学	城西大学	日本工業大学	計
ヒューマンケア論	429名	138名	461名	39名	1,067名
ヒューマンケア 体験実習	410名	272名	261名	9名	952名
IPW論	416名	192名	225名	23名	856名
IPW演習	464名	146名	25名	20名	655名
IPW実習	417名	134名	17名	12名	580名

3. IPW演習 報告

1) IPW演習（緩和医療学）

12月1日（金）13：30～17：05 会場：城西大学

わが国が推進している医療、介護および福祉の領域が連携し患者などのケアを行う地域包括システムは、複数の領域の専門職者がそれぞれの技術と知識を提供し合い、相互の作用しつつ共通の目標の達成を患者・利用者とともにめざす協働した多職種連携実践（IPW）によって支えられている。IPWの発展には、複数の領域の専門職者は連携およびケアの質を改善するために、**同じ場所で共に学び、お互いから学びあいながら、お互いのことを学ぶ、多職種連携教育（IPE）**が大切である。専門職（または多職種）者は、常にIPEの姿勢や態度をもってIPWに臨める専門職の育成が臨まれるが、それぞれの職域を中心とした教育や、職能を発揮させる経緯などの要因が、専門職の連携した質の高いサービスを提供する際の障壁となることがある。

城西大学、埼玉県立大学、埼玉医科大学および日本工業大学の4大学は、異なる専門性をもった人材を輩出する教育を行っており、地域住民の暮らしを支える連携力を育成するための教育方法を開発するために「彩の国連携力育成プロジェクト(saipel)」を共同で運営している。saipelは5つの地域基盤型IPWコンピテンシーを定め、教育プログラムを3つの学びの要素に分け「彩の国連携科目」として身に付けるべきものを明示した。そのプログラムの1つであるIPW演習（緩和医療学）は、**緩和ケアを題材に、模擬患者に対する面談**やその内容を踏まえた**チームによる議論**によって、全人的なアプローチから**ケアプランを作成**するとともに、**多職種がチームとして活動し、乗り越えるべき課題について考える演習**である。

2024年度は、埼玉県立大学理学療法学科（3年生28名）、埼玉医科大学医学科（3年生135名）、城西大学薬学部（17名：薬学科4・5年生14名、医療栄養学科3年生3名）、日本工業大学大学院 建築デザイン学専攻（1名）の総勢**181名の学生**によって実際されました。

学生たちは、培った知識や技術を応用してメンバーたちと面と向かって上手にコミュニケーションを図り、模擬患者さんの病歴や治療情報、さらにはインタビューを通じて得た患者さんの生活状況や**思い**などをもとに、**患者さんに寄り添いながら**支援する方策について活発に話し合っていました。また、学生に協力を得て事前および事後のアンケート調査を実施した。この演習は、患者の思いや気持ちに寄り添うこと、患者の状況を客観的に評価すること、グループ活動やコミュニケーションの実践することなどに有効であった。特に、この演習を経験することは、単独の大学の学生で構成されるメンバーよりも、**複数の大学の学生で構成されたチームが、IPWに対する理解が高まる**ことを明らかにした。次年度は、単独の大学で構成された学生も高い学習効果を得るような工夫をする予定である。



チーム活動の様子



培った技術で情報を可視化する



模擬患者への面談の様子



模擬患者との面談は本物そのもの



まとめた意見を発表する様子



演習後は親睦も深まりIPWを実感

2) IPW演習（リハビリテーションと生活空間デザイン）

日 程：2024年12月7日（土）12:30～17:00

会 場：日本工業大学（対面）

【授業（演習）の目的・概要】

日本工業大学建築学科生活環境デザインコースと埼玉県立大学理学療法学科を中心とする保健医療福祉分野の学科が連携し、**IPW 演習（リハビリテーションと生活空間デザイン）**を実施している。

この授業では、**保健医療福祉分野（主に理学療法）と建築分野の学生による混合チーム（1チーム3～4名）**で、**協力者（実際に障害をお持ちの方：頸髄損傷）が望む生活の実現、生きがいの創出、また、地域との関係を持ち役割を發揮できる生活環境の整備提案をまとめるグループワーク**を通して、IPWにおける**チーム形成プロセス**、および**チームによる課題発見・解決策等の討議の体験**、そして、この体験を振り返り（**リフレクション**）、意味づけ、**自分の課題を見出す**ことを目的としている。



全体オリエンテーション



協力者からの望む生活のお話し



チーム活動（作図）



チーム活動（討議）



チーム活動（採寸）



【演習のタイムスケジュールと内容】

	日本工業大学 建築学部	埼玉県立大学 保健医療福祉学部	
学科	建築学科生活環境デザインコース	理学療法学科	他学科（参加募集による有志）
学生	「福祉空間の設計」履修者 （2年生23名） ※2023年度:26名	「地域理学療法実習」履修者 （3年生12名） ※日工大履修者の1/2で配置	1名（看護学科） ※2023年度：3名 （看護・作業・健康開発学科）
内容	12:30～13:15	1) オリエンテーション（チーム毎に着席） 2) 「事前自己評価」の実施 3) ディスカッション方法の補足説明 4) アイスブレイク：自己紹介等 5) 対象となる当事者の自己紹介	
	13:25～15:25	グループディスカッション開始（120分間） ※各グループで適宜休憩を挟む	
	15:35～17:30	報告会（95分間） 1チーム5分発表 全体ディスカッション / 総評	
	17:30～17:40	「事後自己評価」の実施、終了	



【学生の学び】

この演習を通して、医療分野の学生からは、「疾患だけでなく、その人や環境に対する視点の重要性に気づいた」、建築分野の学生からは「これまで狭い知識で建築を考えており、住み手の身体機能や将来に対する視点がなかった」などの感想が聞かれ、各分野の学生が、専門性の違いを認識し、**多職種連携の必要**や自らの専門の重要性に対する**気づき**を得ていることが分かった。



全体発表会

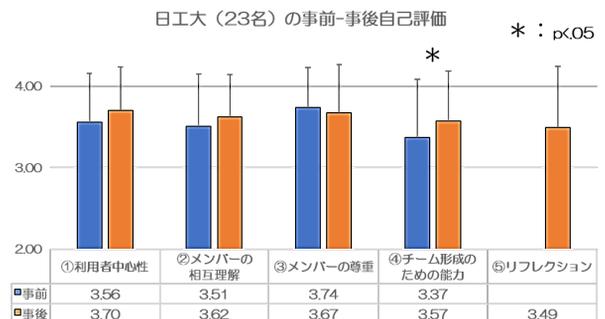
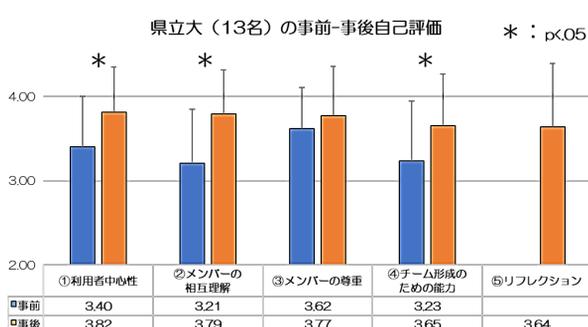
【学生の学び（レポートから抜粋）】

日本工業大学	<ul style="list-style-type: none"> ・「対象者の生活を豊かにする事」を第一に考えている点は同じであったが、保健医療福祉分野を専門とする学生さんは、Fさんと共に生活する「人」について重きを置き、建築を専門とする学生は「建築物」に重きを置いていた。同じ目標や共通する考え・思いがある事は協力する為の基盤になり、新たな学びや価値観を得られることに気付いた。 ・異なる分野を専門とする学生とディスカッションをして、一つの考え方にとらわれていたことがよく分かった。異なる視点からの意見や知識が融合することが、より良い案を生み出す上で重要だと実感した。 ・設計者目線で福祉について学習していると、寸法ばかりに気を取られてそんなことよりも大事なその人の生活、気持ちなどにあまり目を向けられていないことに気づいた。この視点を得られたことがとても学びになったと感じる。建築分野を学ぶ私が提供する快適な暮らしは、快適な「住まい」であると同時に快適な「生活」であると考えるきっかけになった演習だった。 ・お互いの専門知識を共有することで、一人では思いつかないような課題解決策が生まれることが多くあった。多様な視点を取り入れることでより質の高い解決策が生まれることを実感した。特に、保健医療福祉分野の視点を取り入れることで、建築設計の中に新たな価値を発見することが出来る。 ・専門用語や考え方の違いから、相手の意図を正確に理解することが難しい場面がたくさんあったが、相手の知識や考え方を否定するのではなく、尊重しながら共通の課題に向けて協力する姿勢の大切さを感じた。
埼玉県立大学	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの難しさを感じた。今まで、大学内の医療分野の学生としか討議しなかったが、今回初めて建築分野の学生と話をし、普段私がどれだけ専門用語に頼っていたのかを感じた。 ・私は、車椅子で生活するという情報から、段差をなくしたり玄関を広くしてスロープを付けたりすれば良いと大まかに考え、家の図面を見てどこに改修が必要かを考えようとした。しかし、日工大の学生は、まず始めに車椅子の寸法を測りに行こうとした。確かに実際に大きさを知らないと玄関を広くしたりスロープを付けると言っても、どのぐらいの広さや幅が必要か分からないと気づくことが出来た。 ・日工大の学生の出す意見は、やはり建築分野に焦点を当てたものがほとんどで、専門性が遺憾なく発揮されていた。我々は利用者の身体機能ばかりに焦点を当ててしまう傾向があり改善しなくてはならない点であるが、他領域でも同様の現象が生じていると気づいた。 ・理学療法的視点から提案する住宅改修案の中で実現できることは限られており、思った以上に費用がかかってしまうことに驚いた。しかし、自分には無い発想で代替案を提案してくれたこともあり、お互いに補填し合うような関係性を築くことができたと感じた。

【事前・事後自己評価の変化】

本年度は、**埼玉県立大学**では、**①利用者中心性、②メンバーの相互理解、④チーム形成のための能力**で事前よりも事後の自己評価に**有意な向上変化**が認められた ($p<.05$)。一方、**日本工業大学**では、有意な向上変化が認められたのは、**④チーム形成のための能力のみ**であった ($p<.05$)。昨年度は、本年度の県立大学と同様の結果であった。今回の**日本工業大学**は、**①～④全体的に事前自己評価が高い傾向**にあった。これについては、今後、検討が必要と思われる。

③メンバーの尊重については、両大学ともに事前・事後自己評価に有意差は認められなかった。**事前の平均値が4点満点中3.6以上と高い値**（県立大：3.62，日工大：3.74）を示していたため、事後に有意な変化としては表出されなかったと思われる。昨年度も同様の結果であった。



Ⅳ 4大学・埼玉県における連携教育の展開・発展・トピック

1 埼玉県立大学

新設“専門職連携教育研修センター（IPEセンター）”

● 埼玉県立大学の特色強化

- ・ IPE科目の支援（学内IPEの充実）
- ・ IPEの普及・啓発（現職者への研修の充実）



多職種連携による
ケアの充実、質向上

本学では1999年の開学当初より専門分野を超えて「ケアの質の向上」を実現する**専門職連携教育（IPE）**に力を入れてきた。学部教育において、専門的な知識・技術の修得のみならず、他専門職等と**連携できる能力（連携力）の基盤**を有する人材を育てるとともに、専門職連携実践（IPW）研修等を通じ、卒業生を含む保健医療福祉施設等の**現職者の“連携力”の涵養**に取り組んできた。このような経験の積み重ねを踏まえ、学内IPEのさらなる充実、IPEの普及・発展を通じて、多職種連携によるケアの充実と質向上につなげる**本学の特色強化**をはかるため、“専門職連携教育研修センター（通称：IPEセンター）”を新設した。

当センターでは、特にIPEを通じた**実習施設との連携を強化**し、実践**現場の連携ニーズ**に対応したIPEの展開、“連携力”を備えた実践現場の人材育成、IPEやIPWの普及・啓発を目指します。

IPEセンターは、地域の皆様、保健医療福祉専門職の皆様と**“一緒に考え”**、“寄り添い”、“**ともに取り組む”**、そして**“身近にある”**センターを目指したいと思っている。

<IPEセンター新設メンバー>

IPEセンター長：田口孝行（理学療法学科）

IPEセンター員（11名）：國澤尚子・善生まり子・丸山 優・吉村基宜（看護学科）、井上和久（理学療法学科）、押野修司・柴田貴美子（作業療法学科）、嵩末恵子・小川孔美（社会福祉子ども学科）、岡田茂治・井原寛子（健康開発学科）

専門職連携コーディネーター：朝日雅也（埼玉県立大学名誉教授）

事務局：中野真理子・芦沢達也・澤里 寿・小原一晃・高橋勇介

<2024年度 IPEアドバイザー（5名）>（50音順）

内海巨史氏（介護老人保健施設I林*ワル秩父）、小野寺由美子氏（埼玉協同病院）、酒本隆敏氏（特別養護老人ホーム杏樹苑栗風館）、佐藤厚志氏（三郷市障がい福祉相談支援センターみさと中央）、野呂牧人氏（介護老人保健施設ケア・ビレッジ・チャーム）

1. 専門職連携教育推進のための学内教育プログラム等の充実

1) IPE推進事業

●学部・大学院IP教育プログラムの検討支援

- (1) 学部・大学院IPE科目の発展性・教育の質の検討支援
 - (2) IPE科目の運営支援
 - (3) カリキュラム改訂に向けた検討支援 など
- (学部) IPE5科目 (大学院) 2科目

2) IPE研修事業

●IPEにかかる教育能力開発

- (1) IPEに関するFD研修
 - (2) 教員ファシリテータ研修 (IPW実習)
 - (3) 施設ファシリテータ研修 (IPW実習)
- (IPW実習科目責任者会と連携)

2. 専門職連携教育にかかる実習施設との連携強化

1) IPE/IPW推進コンソーシアム

●IPE実習施設との連携強化、IPE情報交流（ヒューマンケア体験実習・IPW実習の継続）

- (1) 実習施設とのIPE科目の教育内容の共有
- (2) 実習（ファシリテータ）の振り返り
- (3) 連携現場ニーズに関する意見・情報交流 等

2) IPEアドバイザー制度

●IPE/IPWに精通した実践者との情報交流

- ※IPEアドバイザー：10名以内
- (1) IPE/IPW推進コンソーシアムの企画・開催協力
- (2) IPE関連研修（FD、ファシリテータ等）への協力
- (3) 教員・施設ファシリテータへのピアサポート
- (4) 本学IPE発展に向けた実践現場からの助言

3. 専門職連携教育にかかる研修等を通じた地域の人材育成

1) IPE/IPW研修事業

●現職者向けIPE研修会の企画・実施（履修証明プログラム等）

- (1) チームビルディング研修、(2) 記録法（F-SOAIP）研修、(3) ファンリテータ研修、(4) 実践事例研修、(5) 多職種チームによる実地実習（IPW実習） 等

2) 4大学連携（saipe）事業

●4大学・埼玉県との連携協定に関するIPE事業

- (1) 現職者向け連携力育成事業（人材育成）
 - ①緩和ケアIPW研修会、②IPWカフェ
 - ③連携現場取材 等
- (2) 埼玉県内職能団体との意見交換会 等

4. 専門職連携教育の普及・発展

●専門職連携教育（IPE）の普及・啓発・地域展開

- (1) IPEセンターシンポジウム等（学外向け）の企画・開催
- (2) IPEセンターフォーラム等（学内向け）の企画・開催
- (3) IPE/IPWに関するニーズ調査、IPE関連調査等
- (4) 各種学会・諸団体等のIPE講演等への協力
- (5) 病院・施設のIPE/IPWキャリアアップ講習への協力
- (6) 専門職養成大学校等へのIPEコンタクト協力 等
- (7) 地域ベースのIPW/IPE推進の支援
- (8) IPEに関する国際的な動きを踏まえた情報収集

専門職連携教育研修センター（IPEセンター） センター長・センター員・事務職員

大学の教育研究資源やその成果を用いて、地域の関係機関等と連携しつつ、大学内外における専門職連携教育の普及・発展に貢献する際の拠点

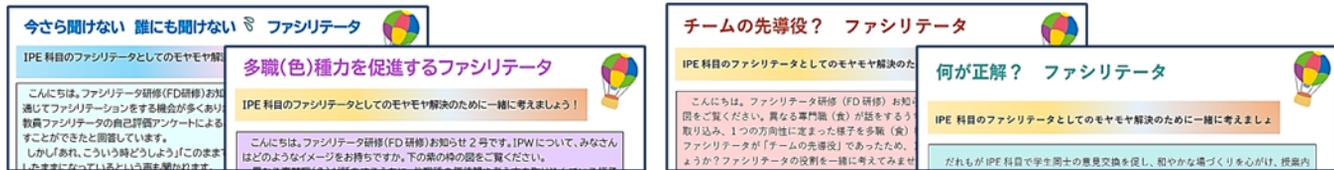
●連携力を兼ね備えた専門職（卒業生）の育成 ●保健医療福祉施設等における現職者の連携力育成 ●専門職連携実践（IPW）によるケアの質向上

◆ 2024年度 IPEセンターの主な活動（支援）・成果のまとめ

1. 専門職連携教育推進のための学内教育プログラム等の充実

- 「IPEセンターフォーラム」の開催（学内）：2回（計14名）
- 「新カリキュラム検討部会」：新カリキュラムにおけるIPE科目の改訂
- FD研修会「IPE科目のファシリテータのモヤモヤ解消」：1回（31名）
- 教員・施設ファシリテータ研修企画の検討（IPW実習）

- 1) IPE（科目）の共通理解
- 2) 教育能力開発（ファシリテート能力）



2. 専門職連携教育にかかる実習施設との連携強化

- 「IPE/IPW推進コンソ立ち上げ」説明会：1回（11名）⇒ 動画配信
- 「JAIGE 第17回学術集会」：「市民公開シンポジウム」：埼玉南専門職連携推進ねっとわーく・IPEセンターコラボ企画（約90名）
- 第1回IPEアドバイザー会議：1回（16名）

- 1) 実習施設との連携強化
- 2) 教育能力開発（ファシリテート能力）

3. 専門職連携教育にかかる研修等を通じた地域の人材育成

- 履修証明プログラム：5講座（計75名）
- 研修修了者（2名）との交流会：10月10日（9名）⇒ 修了者とのつながり
- 施設・法人からのIPW研修依頼：①埼玉協同病院、②社会福祉法人誠会
- 4大学連携事業（saipe）：職能団体との意見交換会、IPWカフェ 等

- 1) 学外施設のIPE理解
- 2) 他専門とのIPE実践
- 3) 職能団体のIPE理解



4. 専門職連携教育の普及・発展

- 「埼玉県立大学25周年記念講演会」の開催協力（約250名）
- 「JAIGE 第17回学術集会」の開催協力（約210名）
- 韓国・壇国大学とのIPE情報交換
- 『IPEセンター・パンフレット』の作成と配布（IPW実習施設）

- 1) IPEセンター（活動）の周知
- 2) 国内外のIPEの動向に関する情報収集



参加者：約250名

<紹介>

- ・ IPEセンター（田口）

<講演>

- ・ 大越恭二氏（越谷市医師会副会長）
- ・ 小野寺由美子氏*
- ・ 酒本隆敬氏*

* IPEアドバイザー



参加者：約200名

会場：埼玉県立大学

<実行委員>

- ・ IPEセンター員
- ・ saipeメンバー

< IPEセンター・saipe関連企画 >

- ・ シンポジウム1
- ・ 市民公開講座
- ・ 一般演題発表（5演題）

2 埼玉医科大学

埼玉医科大学は、大学間連携共同教育推進事業の補助期間に導入した彩の国連携科目を、2016年度のカリキュラム改定に併せて、医学部1～4年生の「**地域医療とチーム医療**」ユニットをはじめとして、**1・2年「臨床入門」、3・4年「導入クリニカル・クラークシップ**」などに配置して、運営しています。2022年度には文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業に選定され、学内では念願の**医学部保健医療学部合同IPE**を、また群馬大学とは1年生全員が参加した共同学習をスタートしました。また、**Sai_UPPsで開発したキャラ化を用いて**医学部保健医療学部の一部学生間で**自職種・他職種を理解する取組み**を進めています。saipeで培った連携力を育成するカリキュラムの内容、運営だけでなく、教員が身につけた**他大学、多領域と連携するスキル**を十二分に発揮して**新たな連携を進めています**。

(1) 医学部保健医療学部合同IPE (2022年度開始)

医学部保健医療学部合同IPEは、2学部5学科(医学、看護、臨床検査、臨床工学、理学療法)の3年生全員329人が参加する実習です。両学部で従来から教育してきた医療安全教育の中のヒヤリ・ハット事例を用いた根本原因分析(RCA: Root Cause Analysis)と、saipeの取り組む**暮らしを支える連携を学ぶための高齢女性の支援計画を立案すること**を課題として、多学科学生が混ざったグループでの演習を実施しています。2022年度はコロナ禍での実施でマスク、ゴーグルを着用してスタートしましたが、2024年度は全員が一緒に集い、課題解決に取り組む事ができました。



2024年度合同IPEチラシ



RCAをテーマにしたグループワーク



支援計画の学生による発表

(2) 群馬大学との合同授業 (2023年度開始)

埼玉医科大学と群馬大学は「**少子高齢化や医療費増大、人口減少社会を迎える地域社会・医療の課題を解決するために必要な基本的な知識、技能、態度、価値観を身につけること**を通して、**将来地域・社会で役に立つ医師になるための素養を育む**」ことを目指し、**両大学を遠隔でつなぎ、合同授業を行っています**。両大学からの授業や両大学学生が実施した**地域診断の発表を聞き、活発に質疑応答する姿**を見ることができました。お互いの県に対して関心を高めることができた、**多様な意見を聴いて地域を理解することが重要だと感じたなど、離れていてもお互いに学び合う貴重な機会**となっています。



群馬大学の学生による地域診断の発表

(3) キャラ化を用いた連携の拡がり

埼玉医科大学保健医療学部臨床検査学科では、彩の国連携科目(ヒューマンケア論、IPW論)の一部分を学習する科目を導入しています。この臨床検査学科の授業と、医学部2年生のIPW論該当ユニットの双方で**Sai_UPPsが開発したキャラ化を行い、自職種の理解を深めるとともに、相互にできたキャラを紹介し合い、他職種理解も進めています**。また、米岡准教授を中心に、キャラ化を用いた研修も活発に行われています。**2023年度の日本医学教育学会、2024年度の第17回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会でワークショップを開催**したほか、2024年度には**埼玉県保健師や入間西部地域包括支援センターの研修会などでもワークショップを開催**し、卒前、卒後における連携スキルの向上に取り組んでいます。



医学部2年生の自職種理解のキャラ化

3 城西大学

城西大学は、建学の精神「学問による人間形成」から社会に有為な人材を育成するとともに、人類文化の発展に寄与することを理念にしています。特に、**2012年に開始した薬学部を中心としたsaipeの活動**により、城西大学がアクティブラーニングを発展させる中で課題解決型学習（PBL）に取り込む大きな機会を得ることができました。そこで得られた連携力の重要性は、2024年度までに、以下の3つの教育基盤を作り、**文系や理系の垣根を越えた総合大学としての新しい教育体制**を生み出しました。

(1) 全学共通基盤科目 協創力体験演習 (2024年始動)

これは、5つの学部学生が入学直後から学部・学科だけでなく国籍の垣根を越えて、多様な人々の言葉に耳を傾け、自分の考えを伝えながら交流することによって**お互いを理解し、尊重し皆と協力して新しい価値を創り出していこうとする力「協創力」**を身に着ける科目です。昨今の激しく変化する社会には、解決しなければならない課題は無数に存在しています。そこに求められる力を本学では、大学全体で「協創力」によって育てています。



協創力体験演習の様子（新入生たち）

(2) 薬学部薬学科 コミュニケーション体験演習 (2018年～)

薬学科4年生のPBLの**コミュニケーション体験演習（必修科目）**は、授業のテーマである「自分ごと化 城西・薬学」として各プロジェクトチームが活動してきました。この授業では、生活者の多様な考え方を理解した上で、地域社会に貢献できるようになることを目指し、より実践的なコミュニケーション能力を培い、**対象者に寄り添い、課題解決に向けた方策や活動を考える能力を養うことを目標**としています。現在では、薬学科の専門科目の総合的な科目に位置づけられ、学生の城西らしさを育てる科目になりました。



がん患者支援活動



小学生の薬剤師体験活動



埼玉県薬剤師会との活動

コミュニケーション体験演習による様々なアクティブラーニングの様子

(3) 地域連携センターの設立とその歩み (2013年～)

地域連携において、本センターでは、2013年に地域志向で教育・研究・社会貢献を目指す「**城西大学連携教育・研究推進プロジェクト（J-CLIP）**」を通じて活動方針を立て、2015年4月には地域教育医療福祉センター（J-CLIC）を設立し、2018年に「地域連携センター」への改称、**2021年4月には地域連携センター事務室が新設**されました。現在では、越生町、坂戸市、鶴ヶ島市、日高市、毛呂山町と連携するJ-CLIPや**埼玉東上地域大学教育プラットフォーム（TJUP）**などの活動を積極的に行っています。

学生や医療従事者教育において、本センターは、薬学部の学生教育だけでなく現職者の**連携教育に関する模擬患者育成**にも注力し、**質の高い医療従事者（薬剤師、薬科学技術者、管理栄養士）育成に貢献**しています。



模擬患者の養成



模擬患者養成の支援



学生教育の様子

地域連携センターの活動

4 日本工業大学

本学では、大学間連携共同教育推進事業の補助期間において、**建築学科・生活環境デザインコース（当時の生活環境デザイン学科）のカリキュラムへの彩の国連携5科目導入を完了**し、現在まで定常的に科目運営を行っている。その中で、本年度、4年ぶりに施設実習を再開した「ケア空間体験実習」と、彩の国連携力育成プロジェクトで得た知見・経験を通じて2022年度に開発された全学科1年生対象の「暮らしの支援とエンジニアの協働」について報告する。

(1) 「ケア空間体験実習」の施設実習を再開

「ケア空間体験実習」は、彩の国連携科目の「ヒューマンケア体験実習」に該当する本学の授業である。2020年度～2023年度は、施設での実習ができず、①身近なお年寄りなどからお話を伺う。②近隣の団地内にあるコミュニティーカフェの常連さんから2人1組でお話を伺う。①②の体験をグループワークでふり返る。以上の内容で構成することとなった。それぞれ及び互いの経験を通じて、コミュニケーションについて省察の機会を得ることができた。また、ヒューマンケアマインドの醸成にも寄与するものであったと考えられる。しかし、対象となる方々の生活の場に身を置く、本来のあり方での実習再開が望まれた。

本年度は、特別養護老人ホーム・杜の家やしお（2期間）、認知症高齢者グループホーム・グループホーム喜楽里に受け入れをご了解いただき、4年ぶりに施設実習として実施することができた。学生たちは2日間、各施設のユニットに身を置かせていただき、暮らしの場を体験し、利用者の方々の日々の暮らしとこれまでの人生について触れることができた。学生のふり返りとレポートから、**暮らしの環境、日々の思い、利用者職員並びに利用者相互の関わり合いについてなど、暮らしの場での体験を通じてこそその気付きと学びが多かった**ことが窺われた。



施設ツアー（杜の家やしお）



実習風景（杜の家やしお）



実習風景（グループホーム喜楽里）

(2) 「暮らしの支援とエンジニアの協働」科目開設3年・論文掲載

彩の国連携力育成プロジェクトが進む中、本学の他学科（機械系・電気通信系・情報系など）では、工学技術を医療・福祉に応用する研究や、関連する教育プログラムが多く実践されてきた。そのような教育・研究に従事する教員が分野横断的な交流会を重ねるなかで、医療・福祉分野に関する科目開発の機運が高まっていった。彩の国連携力育成プロジェクトのメンバーである教員も、これまでの経験について交流会で報告するよう求められたのを契機に、科目開発に参画することとなった。

当初から、分野横断的な演習・実習プログラムが学生に有効であり、その中で新しい発想や幅広い視野が得られること、連携・協働についての経験が得られることが期待されていた。しかし誰のため、何のために連携・協働するのかということが必ずしも明らかでなく、開発すべき授業の目的も明確でなかった。彩の国連携力育成プロジェクトのメンバーである教員の参画により、**授業の目的は、人の暮らしの支援への関心の醸成、人の暮らしとその支援についての洞察力の獲得、チームメンバーと思いや考えを共有するための方法・工夫・態度の修得などへと収束**していった。また、人の暮らしの支援に関する実践者による講義、グループワーク、ふり返り（リフレクション）の繰り返して授業を構成することとなった。そして、2021年度の試行を経て、2022年度に、人の暮らしに寄り添えるエンジニアを育てるための、全学科1年生対象の選択科目として、「人の暮らしの支援とエンジニアの協働」が開講した。

この科目は、**彩の国連携力育成プロジェクトの実践で得た知見に基づくものであり、それを全学へと波及・展開させたもの**である。以後、毎年、100名前後の学生が履修し、授業評価アンケートにおいて高い評価を得ている。授業実践の概要と成果は日本工学教育協会の学術誌『工学教育』72巻4号（2025年7月）に掲載された。

5 埼玉県

(1) 取組を点から線に

2017年1月に締結した新たな協定締結後、県は大学との会議や職能団体との意見交換会などに参加し、ステークホルダーとしての関りを継続していましたが、コロナ禍を経て、担当者も変わり、「現職者の人材育成」の実践の場が少ない県の関与は少なくなっていました。

そこで、2023年度から2024年度にかけて、**大学関係者や職能団体の方々と顔が見える関係を構築すること**を心がけました。また県保健医療部には保健師、薬剤師、管理栄養士など様々な専門職が働いているので、**saipeの取組を、県の人材育成にも生かす**ことを意識した活動を行いました。

(2) 大学間運営連絡会議に県の事業担当者参加

県の事業には、大学に周知をしたい、教員や学生の方に協力または参加をお願いしたいものがあります。そこで、関連する事業について、担当者が会議で報告を行い、会議参加者に周知を行いました。

2024年度は健康長寿課、保健医療政策課、疾病対策課が事業の周知を行いました。

(3) 職能団体との意見交換会（Sai_UPP s）に県の専門職参加

県の専門職職員に、職能団体との意見交換会（以下Sai_UPP s）に参加してもらいました。今年度は各回に保健師の職員が参加し、職能団体の人材育成担当者とワークショップを行いました。参加者からは、「仕事につながる職能団体の方と会えることは大きなメリット」、「職能団体から若手の人も連れてきてほしい。県からも少し上の職位の人が来てほしいと思った。交流の場としてもっと活用しないともったいない。」という意見がありました。

(4) 保健師2・3年目研修でキャラ化ワークショップを実施

県庁の2・3年目保健師研修で、Sai_UPP s から生まれた職種理解のためのキャラ化ワークショップを実施しました。**行政の研修でキャラ化を実施したのは初の事例**です。ワークショップ作成者の埼玉医科大学米岡准教授に講師をしていただきました。受講者に大変好評で、研修担当者から「来年度も実施したい」と話がありました。また、ファシリテーターとして参加した保健師の先輩職員にも、キャラ化ワークショップを事前に体験していただき、こちらも非常に好評でした。

今後、経験年数のある職員のキャリアの振り返りや、多職種が働く保健所での研修にも活用ができると思います。

(5) 学会等での発表

saipeの取組や保健師研修でのキャラ化の実施について、**日本保健医療福祉連携教育学会第17回学術集会で一般演題（ポスター）発表**をしました。

また、県が主催する**健康福祉研究発表会**で、**2023、2024年度にsaipeと県の取組について発表**しました。

健康福祉研究発表会には県、市町村の福祉・医療の専門職が多く参加します。ぜひ来年以降saipeや、Sai_UPP s 関係者に参加、発表いただければと願っています。

(6) saipe事業を庁内ポータルで周知

saipe事業のうち、県の施策、県職員や家族に関する事業を**庁内ポータルで職員に周知**しました。ユースクリニック、IPWカフェ（職能団体の方のミニレクチャー）の記事を掲載しました。**県職員の参加**につながり、**ユースクリニックでは久喜図書館との連携**も生まれました。

以上2年間の取組について紹介しました。**県のかかわりを「点から線」にできた**のではないかと思います。今後さらに発展して、「**線から面**」なることを期待しています。

V 2024年度“彩の国連携力育成（人材育成事業）”の実績報告

1. 職能団体との意見交換会（Sai_UPPs）

※Sai…SAITAMA、彩の国

※UPPs…University(大学),Prefecture(県),Professionals(職能団体)

【概要・経緯】

saipeでは主に大学教育において、現場に出る前の学生の連携力を育成することを目指してきたが、メンバーでもある埼玉県からは「(saipeのIPEの)アウトカムはどう測るのか」という指摘があり、また、卒業生からも「せっかく学んだ連携力が現場で発揮しづらい」という声も上がっていた。これを機にsaipeの中でIPEを受けた学生の卒業後についての議論が進んだ。その中で、現場の連携がもう少し進めば、学生も大学で学んだことを発揮しやすくなるのではないかという観点から、**学生教育と現場の専門職の人材育成を連携力育成の両輪**として位置づけるに至った。

そして、現場へのアプローチの一つとして、2018年度埼玉県の現職者の人材育成を担う職能団体との意見交換会を開催することとなった（「埼玉県における「連携力の高い人材育成」を目指した職能団体と4大学の意見交換会」）。以降毎年1・2回、意見交換会の開催を継続している（これまでの開催日時、意見交換テーマは、次ページの表を参照）。2024年度現在の参加団体は、埼玉県の**医師会、栄養士会、介護支援専門員協会、看護協会、公認心理師協会、歯科医師会、社会福祉士会、理学療法士会、薬剤師会**である。加えて、建築の現場から、バリアフリー住宅などの実績の多い**工務店及び建築士会**に参加いただいている。参加者は各団体の研修担当役員など及び埼玉県の担当課、saipeメンバーである。

本会を通じて、**saipeと職能団体の間、職能団体同士の間での相互理解や人間関係の醸成**が進み、また saipeの事業への職能団体の支援を受けることができ、連携して人の暮らしを支えられる人材を育てることが重要だという認識の共有も進んできた。他方、この意見交換の場自体も多様な専門や背景を持つ人との間の連携の機会でもある。そこで、**意見交換会開催に当たっては、会に参加することが楽しい、役に立つ、次も参加したいと思えることを大切にしている。**

2024年度にはこれまでの会をふり振り返りながら、この会にふさわしい名称を参加者全員で議論して決定した。また、コロナ禍によりWeb開催が続いていたが、12月に4年ぶりに対面で実施した。

【2024年度の実績】

◆第12回意見交換会

日時：2024年5月30日（木）18:00~20:45

場所：Web開催（Zoom）

出席者：栄養士会（3名）、介護支援専門員協会（2名）、看護協会（1名）、公認心理師協会（1名）、歯科医師会（2名）、社会福祉士会（1名）、薬剤師会（2名）、理学療法士会（3名）、建築関係（1名）、埼玉県立大学（10名）、埼玉医科大学（8名）、城西大学（6名）、日本工業大学（2名）、埼玉県（3名）。

- 内容：1）開会挨拶、会議のOARR共有、自己紹介
2）saipeと職能団体の活動の報告
3）意見交換会で立案された企画の活動報告
4）意見交換：**この意見交換会の名称を決めよう（その2）**
* **この意見交換会の名称が「Sai_UPPs」に決定**
5）saipeからの情報提供
6）ふり振り返り、閉会挨拶

◆第13回意見交換会

日時：2024年12月5日（木）18:00~20:45

場所：埼玉会館（対面開催）

出席者：医師会（1名）、栄養士会（3名）、介護支援専門員協会（2名）、看護協会（1名）、公認心理師協会（2名）、歯科医師会（1名）、社会福祉士会（1名）、薬剤師会（2名）、理学療法士会（1名）、建築関係（1名）、埼玉県立大学（5名）、埼玉医科大学（5名）、城西大学（5名）、日本工業大学（2名）、埼玉県（2名）、オブザーバー（建築士会）（1名）。

- 内容：1）開会挨拶、会議のOARR共有、自己紹介
2）saipeと職能団体の活動の報告
3）意見交換会で立案された企画の活動報告
4）意見交換：**連携できるひとはどんなひと？**
* **コンピテンシーに関するワークショップ**の試行
5）saipeからの情報提供
6）ふり振り返り、閉会挨拶

★これまでの職能団体との意見交換会（Sai_UPPs）

年度	月	回	意見交換テーマ	
2018	6月	1	埼玉県の連携力の高い専門職の人材育成の推進について All Saitama シームレスな連携力育成を目指した取組の在り方	
	11月	2	「連携」に関する教育事業の現状 今、必要な連携力育成のための方策及び実施上の課題	公認心理師協会、 建築士の参加
2019	5月	3	ワークショップ共同開催のテーマ、規模等の検討	ワークショップ
	11月	4	来年度この集まりやsaipeを活用して連携力を高めるために 「やってみたいこと」と「できそうなこと」	
2020	12月	5	令和3年度のsaipeと各職能団体の活動について	IPWカフェ
2021	5月	6	具体的な取り組みイメージの共有	
	12月	7	saipeと職能団体で取り組む企画 「多職種が参加する、多職種で取り組む企画」	連携企画
2022	5月	8	4つの企画の協働の形を考える	
	12月	9	キャラ化を体験する	
2023	5月	10	コンピテンシーについて理解を深める	
	12月	11	意見交換会のふり返りと名称を考える（その1）	ワーク ショップ
2024	5月	12	意見交換会の名称を考える（その2）	
	12月	13	連携できるひとってどんなひと？（コンピテンシーワークショップ試行）	

◆Sai_UPPs での連携企画

- ①専門職のキャラ化ワークショップ（手法の開発と実施）
- ②埼玉県内の連携現場の取材
- ③連携コンピテンシーの理解を深めるワークショップ
- ④saipe版事例スコープ
- ⑤IPWカフェ：平日夜1時間・Web開催、ミニレクチャー＋少人数でおしゃべり

<2024年度>

- 第17回：2024年 6月27日 作業療法の視点（柴田貴美子氏）
- 第18回：2024年11月19日 看護のチカラ（各務初恵氏）
- 第19回：2025年 3月 3日 知っているようで知らない「社会福祉士」の世界（福嶋克巳氏）

2. 緩和ケアIPW（多職種連携）研修会

日時：2024年9月8日（日） 9:30~16:30

会場：Web開催（拠点：城西大学）

参加者：14名（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師、介護支援専門員、保健師、養護教諭、建築士）

ファシリテータ：Aチーム（古屋・城西大学、勝木・日本工業大学）、

Bチーム（白幡・城西大学）、Cチーム（善生・村田・埼玉県立大学）、

全体サポート：柴崎（埼玉医科大学）、細谷（城西大学）

運営・進行：堀井・小糸・村田・細谷（城西大学）、吉村・田口（埼玉県立大学）、

柴崎（埼玉医科大学）

運営事務：春原・奈良（城西大学）、長島（埼玉医科大学）、三本松（日本工業大学）、

中野・澤里（埼玉県立大学）

後援専門職能団体：埼玉県医師会、埼玉県歯科医師会、埼玉県薬剤師会、埼玉県看護協会、

埼玉県理学療法士会、埼玉県作業療法士会、埼玉県栄養士会、

埼玉県公認心理士会、埼玉県社会福祉士会、埼玉県介護支援専門員協会

1) 緩和ケアIPW（多職種連携）研修会の特徴

IPWは、利用者の“**よりよい生活**”を目指して、保健医療福祉の関係者（多職種や家族、一般の支援者など）が連携と協働して援助活動を行う。すなわち、利用者の“**生活目標**”を目指して、その実現の障害となっている問題を解決するプロセスをたどる。そして問題解決のプロセスをチームでたどるので“**チーム形成のプロセス**”が同時に動くこととなる。さらに、実践現場の各専門職は、所属施設内での別の組織や外部機関等に同時に所属していることも多いため、組織間・機関間の地域連携も同時に行われなければ、よりよい支援になりえない。

保健医療福祉の**実践の場の連携と協働**は、利用者の問題解決プロセスと、関係者のチーム形成のプロセス、さらに、**関係者が所属する組織や機関間、地域連携のプロセスが影響しあっている**。

本研修会は、本研修会は埼玉県内に勤務する保健医療福祉専門職種（医師、歯科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、リハビリ専門職、認定心理士、社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員等）を対象に、**実践の場の連携と協働を緩和ケアに特化して体験的かつ意図的に学ぶ**ことを主眼を置いた研修会である。

※2020年度からは新型コロナウイルス感染症流行のためオンラインツールを活用した研修会として継続している

<検討する緩和ケア事例の例>

- ・大腸癌術後、多発肝転移等（余命：月から年単位）
- ・乳癌再発、肝転移、肺転移等（余命：3-6ヶ月程度）
- ・肺癌（ステージⅣ）、脳転移等（余命：月単位）



模擬患者

aisp 彩の国連携力育成プロジェクト

多職種連携

2024年度 緩和ケア IPW研修会 参加者募集

「患者さんの想いに寄り添う」連携力を磨きませんか？

2024年9月8日(日)
9:30~16:30

Zoomを用いたリモート開催
(Web会議システム)

参加費：無料

定員：計50名(各専門職種4~5名程度)

- ※多職種のチーム構成とするために専門職種ごとの参加人数を限定させていただきます
- ※埼玉県内の保健医療福祉施設等に就労する方を優先させていただきます

申し込み方法 以下のURLまたは二次元バーコードからお申込みください。
<https://business.sommeai.jp/entry/240318/237064>

研修内容

- 緩和ケアと多職種連携*の基本(理論)
- *IPW(Internet-Professional Work)
- 緩和ケアIPW演習(模擬患者を活用した多職種チーム活動)

緩和ケアに特化した利用者中心の研修がIPWを創出したために、利用者・地域の問題解決プロセスの構築的・多職種の連携と学びの場を創出し、緩和ケアにおけるチーム形成の中心。お話し・経験や疑問点・地域連携プロセスにも意図的に目を向け、より良い緩和ケアの方法やあり方を考える機会とします。また、「実践演習」の方法についても参加者の立場と一線に考えたいことを学びます。

申し込み締切

2024年8月20日(火)17:00

- ※定員になり次第締め切り(各職種先着順)

お問い合わせ先

kiikaku@spu.ac.jp (埼玉県立大学 山口)

〒900-8588 埼玉県立大学 さいたま市浦和区高野1-1-1

研修の開催者(オンライン開催)の顔写真

→ <https://www.jpst.ac.jp/news/pharmacy02011/>

彩の国連携力育成プロジェクトは、埼玉県立大学を核として、埼玉県立大学・城西大学・日本工業大学および埼玉医科大学の4校が共同で実施する事業です。本プロジェクトは、多職種連携による地域連携推進プロジェクト(IPWプロジェクト)の実現を目的として立ち上げられました。その後、連携力育成を目的とした事業を継続的に実施することを目指し、本プロジェクトを基に連携について着実に考え、実践的な多職種連携が実現できる能力(連携力)を育成するための研修や実践プログラムを推進してまいります。

彩の国連携力育成プロジェクトのウェブサイト

→ <https://www.sage.jp/> | <https://www.spu.ac.jp/academic/kyo/fab/d312.html>

主催：彩の国連携力育成プロジェクト(埼玉県立大学・城西大学・埼玉県立大学・日本工業大学・埼玉県)

後援予定：埼玉県医師会、埼玉県歯科医師会、埼玉県薬剤師会、埼玉県看護協会、埼玉県理学療法士会、埼玉県作業療法士会、埼玉県公認心理師協会、埼玉県社会福祉士会、埼玉県介護支援専門員協会、埼玉県作業療法士会

2) 緩和ケアIPW（多職種連携）研修 実施方法

<チーム活動における課題>

- (1) 提示された患者さん（模擬患者さん）の状況について話し合い、“より良い暮らし”を目指した支援方針・計画（案）（入院継続または退院後の在宅(居宅)生活）を提示する。
- (2) **チーム形成プロセス**、組織や機関間・地域連携プロセスにおいて、**チーム課題**、**専門職としての課題**、**自己の課題**、地域連携課題等の発見、およびそれらの**課題解決方法を模索**する

<連携する際のキーワード（意図的なチームディスカッションのヒント）>

- ①「**尊重**」：利用者・チームメンバー等の尊重、尊重していることの表現方法とその状況等
- ②「**理解**」：利用者の人物像・状況・課題・思い・願い等の理解、チームメンバーの理解
- ③「**共有**」：利用者の人物像・状況・課題・思い・願い等の理解の共有、チームメンバーとの理解共有
- ④「**合意形成**」：利用者の課題・支援方針・計画の合意形成
- ⑤その他：オンライン上での省察（リフレクション）、**柔軟な専門性の発揮**等

◆ 研修会タイムスケジュール

9:00～	受付（全体Zoomルーム入室）
9:30～10:30	1) 開会 ※運営関係者紹介 2) IPWの基本（講座） 3) 緩和ケアIPW演習実施方法説明 4) Zoomの設定と共有ツールの使用方法説明
10:30～10:45	◆アイスブレイク
10:45～14:30	5) 緩和ケアIPW演習（※含模擬患者との面談） ・情報収集・整理・共有、対象者課題等の抽出・共有 ・支援方針・計画（案）の検討
14:30～15:40	6) 報告会、学びの共有 ・発表 / ・ディスカッション
15:40～16:15	7) リフレクション（チームごとに実施）
16:15～16:30	8) 閉会 ※事後自己評価・アンケート記入



参加者・模擬患者・ファシリテータをWeb
オンラインで繋いだ演習研修方法

◆実施後アンケート（2024年度抜粋）

	評価値平均(1～5)
緩和ケアにおける「患者（利用者）・地域資源の理解と課題解決」の実践方法を意図的に確認する	4.4
緩和ケアにおける「チームメンバーの専門性と多様性を相互理解」する態度を意図的に確認する	4.6
緩和ケアにおける「チーム形成プロセスと協働」の実践方法を意図的に確認する	4.6
緩和ケアにおける「組織や機関間・地域連携プロセス」の実践方法を意図的に確認する	4.4
緩和ケアIPW演習体験を振り返り、意味づけ、自己の課題および所属施設における課題および解決策を見出すためのリフレクションが意図的にできる	4.4

自由記述 本会で得られたこと等

多職種での**意見交換の重要性**がわかりました
 多職種の方の考え、**気付きが刺激**になりました。
 多職種連携を実現させるために、一つの症例を時間をかけて話し合えたことは、よかったです。
 間を活かすということが話し合いの中では大事だと思った
 多職種の**忌憚ない意見**を聞いたこと。
 チーム内の**リフレクション**が大変学びになった。**他者からのフィードバック**で気付くことが多かった。

◆2022年度からの参加者実績

専門職/年度	2022	2023	2024
医師	2	0	1
歯科医師	1	0	4
薬剤師	3	2	3
看護師	2	2	2
管理栄養士	4	2	0
介護支援専門員	1	0	1
社会福祉士	1	3	3
理学療法士	1	1	0
公認心理師	0	3	0

3. 他職種を理解する“IPWカフェ”（2024年度：第17～19回）

“IPWカフェ”は、様々な職種や立場の方々と気軽に話し合える場が欲しいというニーズに応え、2021年3月から始めたものです。「地域の暮らしを支えたい、豊かにしたい！」という思いの皆さんが職種や立場を超えて出会い、気軽におしゃべりできる場として、年に3～4回のペースで、2025年3月現在までに**19回のカフェが開催**されてきました。

IPWカフェで大事にしていることは「**気軽に参加できる**」ことです。このため、集まりやすい時間帯や形式を模索し、平日夜Zoomにて、1時間で実施するという形に落ち着きました。また、会の進行も、**前半は話題提供としてゲストスピーカーからのミニレクチャー、後半は2～3名のグループに分かれてのおしゃべり、最後に全体での質問や感想の共有**を基本としつつ、後半もメインルームに残ってゲストスピーカーと進行役のおしゃべりを聞くという、聞くだけ参加もできるようにしています。

毎回、**保健・医療・福祉分野に限らない**、地域を支え、豊かにする活動をされている皆様をお迎えし、他では聞けない話から、今更訊けない各職種のお仕事の話まで様々なミニレクチャーをいただき、それに刺激された**おしゃべりが盛り上がります**。**埼玉県外からの参加**もあり、IPWや地域について知り、話せる場の貴重さを感じています。なお、IPWカフェのレクチャーの概要や様子は [saipeのブログ](#)に掲載し、当日参加できなかつた方にも情報提供しています。

◆ 2024年度開催概要

IPWカフェ17（2024年6月27日（木） 18：00～19：00） 参加者：23名

・テーマ：「作業療法の視点」

・ミニレクチャー：柴田貴美子さん（埼玉県立大学 作業療法学科 准教授）

・概要：作業療法の源流や視点についてお話いただきました。作業療法はリハビリの一つの治療ということではなく、作業そのものに焦点をあてた援助であり、その人が作業にどのような意味を見出しているのかを重要だということを知りました。つまり作業療法とは、私たちの日常生活すべてを支援の対象としていると理解できました。

IPWカフェ18（2024年11月19日（木） 18：30～19：30） 参加者：28名

・テーマ：「看護のチカラ」

・ミニレクチャー：各務初恵さん（埼玉県看護協会 常務理事）

・概要：新型コロナの感染拡大時のホテル療養の支援や、能登半島地震の「災害支援ナース」としての活動をご紹介いただきました。それを通して、電話での健康観察や足浴の準備など、厳しい状況でも誰かが必要としていることに気付き、寄り添う工夫をする、命と暮らしと尊厳を守り支える「看護のチカラ」を感じる回となりました。

IPWカフェ19（2025年3月3日（月） 19：00～20：00） 参加者：25名

・テーマ：「知っているようで知らない「社会福祉士」の世界」

・ミニレクチャー：福嶋克巳さん（埼玉県社会福祉士会 副会長）

・概要：社会福祉士の職能について基本から丁寧にお話しくれました。「人の困りごとの数だけ、社会福祉士の活動する場面がある」の言葉や、「相談援助」を行う専門職として他の支援者との連携・協働が不可欠、専門職の提案が本当に対象者の望みに沿うものであるか、「権利擁護」を念頭に他の専門職に働きかけることが大切などのお話から、社会福祉士への基本的理解と、連携についての大切な学びをいただきました。

◆多職種を理解する「IPWカフェ」案内チラシ（2024年度）

彩の国連携力育成プロジェクト
saipe
Inter-Professional Work Association

地域の暮らしを支えたい、豊かにしたい！
IPWカフェは、そんな思いの皆さんが
職種や立場を超えて出会い
気軽におしゃべりできる場です。

2024年
6月27日(木)
18:00 - 19:00
Zoomによる
オンライン開催

● 話題提供
柴田 貴美子 さん
埼玉県立大学 保健医療福祉学部 作業療法学科 准教授

作業療法の視点
～作業療法の源流から、作業療法士がどのように
対象者や作業を捉えているのか、作業療法の視点ををご紹介します～

カフェの流れ
前半：話題提供
ショートレクチャー
後半：バズセッション
・2～3名のグループに分かれて
意見交換 / おしゃべり
(参加せずに待機するのOK)
・その後、全体で質問や感想を
共有

《参加申込み方法》
以下のURLまたは右のQRコードからお申
込みください。ご登録いただいた連絡先に、
Zoomの情報をご連絡いたします。
<https://forms.gle/7MGRdfm5Mz1mdVsLA>
どなたでも参加可能。途中参加・途中退出もOK！
お気軽にご参加ください！
※ IPWは、Inter-Professional Work (専門職種連携実践) の略です。

企画/運営 彩の国連携力育成プロジェクト：埼玉県立大学・埼玉医科大学・城西大学・日本工業大学・埼玉県
連絡先：e-mail:saipe.jimukyoku@gmail.com (SAIPE事務局)

彩の国連携力育成プロジェクト
saipe
Inter-Professional Work Association

地域の暮らしを支えたい、豊かにしたい！
IPWカフェは、そんな思いの皆さんが
職種や立場を超えて出会い
気軽におしゃべりできる場です。

2024年
11月19日(火)
18:30 - 19:30
Zoomによる
オンライン開催

● 話題提供
各務 初恵 さん
埼玉県看護協会 常務理事

看護のチカラ

カフェの流れ
前半：話題提供
ショートレクチャー
後半：バズセッション
・2～3名のグループに分かれて
意見交換 / おしゃべり
(参加せずに待機するのOK)
・その後、全体で質問や感想を
共有

《参加申込み方法》
以下のURLまたは右のQRコードからお申
込みください。ご登録いただいた連絡先に、
Zoomの情報をご連絡いたします。
<https://forms.gle/S9aNoyy9mPt2oASFA>
どなたでも参加可能。途中参加・途中退出もOK！
お気軽にご参加ください！
※ IPWは、Inter-Professional Work (専門職種連携実践) の略です。

企画/運営 彩の国連携力育成プロジェクト：埼玉県立大学・埼玉医科大学・城西大学・日本工業大学・埼玉県
連絡先：e-mail:saipe.jimukyoku@gmail.com (SAIPE事務局)

彩の国連携力育成プロジェクト
saipe
Inter-Professional Work Association

地域の暮らしを支えたい、豊かにしたい！
IPWカフェは、そんな思いの皆さんが
職種や立場を超えて出会い
気軽におしゃべりできる場です。

2025年
3月3日(月)
19:00 - 20:00
Zoomによる
オンライン開催

● 話題提供
福嶋克巳 さん
埼玉県社会福祉士会
副会長

知っているようで知らない
「社会福祉士」の世界

カフェの流れ
前半：話題提供
ショートレクチャー
後半：バズセッション
・2～3名のグループに分かれて
意見交換 / おしゃべり
(参加せずに待機するのOK)
・その後、全体で質問や感想を
共有

《参加申込み方法》
以下のURLまたは右のQRコードからお申
込みください。ご登録いただいた連絡先
に、Zoomの情報をご連絡いたします。
<https://forms.gle/Pipvj5ZRvjiNqgXW7>
どなたでも参加可能。途中参加・途中退出もOK！
お気軽にご参加ください！
※ IPWは、Inter-Professional Work (専門職種連携実践) の略です。

企画/運営 彩の国連携力育成プロジェクト：埼玉県立大学・埼玉医科大学・城西大学・日本工業大学・埼玉県
連絡先：e-mail:saipe.jimukyoku@gmail.com (SAIPE事務局)

【感想（抜粋）】

- ・作業療法の歴史的経過や視点を教えていただき、**とても新鮮**でした。
- ・社会福祉士さんの活動が**人の困りごとの数だけ多岐に渡る**ことを知れてよかったです。
- ・「医療の効力が失ったあとも・・・」の上皇后陛下のお言葉を聞き、最後の最後まで患者さんにも家族にも**寄り添ってくれる大事な存在**であると改めて実感しました。
- ・IPWカフェは初めての参加でした。周りに隠れ社会福祉士が多く、どんな資格なのか気になっていたのもとても勉強になりました。**また参加したい**です。
- ・いつも、楽しく参加させていただいています。他県から参加の私を快く迎え入れてくださり感謝しています。**和やかに少人数で会話**が出来るので、とても楽しんでます。
- ・毎回、ブレイクアウトルームで、**いろいろな職種の方と話ができて勉強**になります。
- ・会員制度にするなどして**過去の講座のアーカイブ**を拝見できる**仕組み**があると嬉しい。

キャラ化実績：他職種理解篇

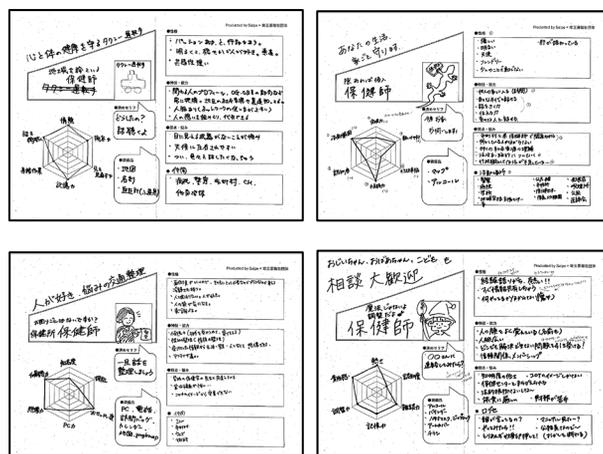
時期	主催	形態	参加者	キャラ化した職種
2022.10	Sai_UPPs	有志の会	Web 7	社会福祉士 [忍者]
2022.11	Sai_UPPs	有志の会	Web 6	歯科医師 [弁慶]
2022.12~ 2023.2	Sai_UPPs	意見交換会・ 有志の会	Web 6	理学療法士 [正義のヒーロー]
2023.7	saipe	医学教育学会大会ワー クショップ	対面 19	病院救命士、ICUの理学療法士 [七色戦隊]、 臨床工学技士 [命を支えるエンジニア]、公認 心理士 [仙人]、看護師 [かるがも]
2023.11	Sai_UPPs	有志の会	Web 7	薬剤師 [名探偵]
2024.3	千葉大学	亥鼻FDプロジェクト	Web 13	男性産婦人科医 [パンダ]、助産師 [白魔術 師]、慢性心不全熟練看護師 [あついオタク]
2024.3	専門学校金沢 リハビリテ ーションアカデ ミー (理学)	ワークショップ (金 城大学:看護・北陸大 学:検査と共催)	対面 11	臨床検査技師
2024.8	北陸大学医療 保健学部關谷 ゼミ	ワークショップ (い しかわ多職種連携教 育プロジェクトあい まいびーとの共催)	対面 29	医師、薬剤師、助産師、保健師
2024.11	saipe	日本保健医療福祉連 携教育学会第17回学 術集会	対面 29	保健師、ケアマネージャー、公認心理士、視能 訓練士、保育所等訪問支援員

キャラ化実績：自職種理解篇

時期	実施機関	形態	参加者	キャラ化した職種
2022.12	埼玉医科大学	授業	対面・ Web 医学部2年133名、 検査学科1年46名	医師、臨床 検査技師
2023.6	埼玉医科大学	授業	対面 医学部2年129名、 検査学科1年46名	医師、臨床検査技師
2024.2	首都医校	授業	対面 各学科の1年生が 自職種をキャラ化	救急救命、看護、保健師、理学療法士、 作業療法士、柔道整復師、アスレチック トレーナー、臨床工学技士、介護福祉士
2024.6	埼玉医科大学	授業	対面 医学部2年134名、 検査学科1年36名	医師、臨床検査技師
2024.8	埼玉県	保健師 (2年目 /3年目) 研修	対面 9名+FT3名/19 名+FT5名	県勤務の保健師

◆保健師 (2年目/3年目) 研修

- ・今まで経験したグループワークの中で**1番楽しめた**。
- ・保健師とは何なのか、専門性を悩んでいたが、**楽しく振り返ることができた**。
- ・どんな特徴や、やりがいをもって、保健師として働いているか**ふり返ることができた**。
- ・(保健師の) 特技やアピールポイントを探すことで**自分自身の学び**になった。
- ・保健師には色々な**可能性**があり、専門的な業務もできる**素敵な職種**だと感じました。
- ・**強み、弱みを認識**できてよかった。
- ・**経験を重ねると保健師についての促え方が変化**するように感じた。また考えてみたい。



5. 地域における連携力育成事業

日本工業大学が所在する宮代町を舞台として、専門職のみならず、行政、民間企業、地域住民も対象とした地域における連携力育成に向けた取り組みを、主に日工大のsaipeメンバーが担当して進めている。

2017年に取り組みを始め、2021年からは定常的な活動として、**認知症の方とご家族が安心して暮らせる地域づくり**（認知症まちづくり）に関する取り組みを行っている。職種や立場を超えて多くの人が当事者意識を持ち、目的を共有しやすいことを旨としてテーマ設定をした。近い将来、認知症のある方が人口の中で高い割合を占めていくことが見込まれており、**買い物や、交通機関の利用など日々の営みを認知症のある方がスムーズに行える物理的・社会的環境整備**は、サービスの提供者、他のサービス利用者にとっても重要なことである。**その環境整備を行政、民間、NPO団体、町内で暮らす人の協働で行い、その過程での「連携力」の醸成**をめざしている。その「連携力」は、地域で暮らす全ての人が享受し得るものと考えている。

具体的には、宮代町役場、宮代町社会福祉協議会、宮代町立図書館、日工大saipeメンバーが月1回を基本とする定例ミーティングを行いながら、「認知症まちづくり」に関する取り組みを企画・実施している。

《2024年度の取り組み》

●定例ミーティング

第1～6回（4月～10月）は2つの「認知症にフレンドリーな社会に向けた合同展」についての検討とふり返しを行い、第7～10回（11月～3月）は今後の活動の指針の検討と今年度のふり返しを行った。

●認知症にフレンドリーな社会に向けた合同展 vol.6 「あしたのわたしと認知症」

9月22日（日）～10月14日（月） 会場：宮代町立図書館

2022年度から開催している、宮代町立図書館を会場とした、パネル展示、講演会、映画上映会等を行う行事である。認知症と「認知症まちづくり」に関する理解を深め、広めることを目的とする。パネル展示では、「**認知症基本法**」の概要（2024年1月施行）、**認知症予防に関する知識、「認知症まちづくり」のために一人一人ができること、町および社会福祉協議会の取り組み等**を紹介した。図書館を会場とした企画ならではの工夫として、各トピックの関連書籍の紹介が添えられた。認知症に関する本を集めたブックコートも展示された。9月23日に、認知症を抱える妻とそれを支える夫の2人の暮らしを描いた映画「記憶の葉っぱ」の上映会、10月14日に、**日工大の野口祐子先生を講師とした講演会「認知症の人も当たり前に出外できるまちづくりーパブリックトイレの研究ー**」を開催した。

図書館は、町内で最も多く、長く高齢の方が滞在する場所であり、多くの方々が展示を観てくださった。小中学生から募集した、お年寄りとの思い出を描いた絵手紙の展示を行ったことで、若い世代の訪問も得られた。

●認知症にフレンドリーな社会に向けた合同展 vol.7 「宮代で共に暮らし共に創る講演会」

9月28日（土） 会場：宮代町立コミュニティセンター進修館

健康介護コンシェルジュ等30以上の資格を持つ、三遊亭楽春さんを講師として、「笑いは健康の良薬」と題する、落語を交えた講演会を開催した。**町内の生活支援団体の紹介と、その担い手募集の告知**も行われた。

●ゆっくりおしゃべり食事会

卒業計画の一環として町内の「**通いの場**」づくりに取り組む学生を中心に、日工大の野口祐子研究室が**企画・運営**したものである。今年度から開始し、**町内の食堂で1回、大学の学食で4回、合計5回開催**した。認知症のある方とその家族を含む町内の高齢者、学生、大学の教職員、町役場及び社会福祉協議会、地域包括支援センターの職員など各回20～30人の参加があり、参加者から好評を得た。**町の職員が血圧測定・健康相談**を行う回もあった。町内の関係機関からも継続の要望があり、2025年度の継続実施を模索中である。

《今後の取り組み》

これまでの取り組みは認知症や「認知症まちづくり」への理解の普及に関する取り組みが中心であった。その間、町・社協・図書館・大学の連携が強化されていったことは大きな成果であるが、今後は、**当事者とそのご家族、民間の事業者、地域住民との連携に向けた具体的な取り組み**を展開していきたい。



「あしたのわたしと認知症」
会場の様子



「あしたのわたしと認知症」
展示パネルと配布物



「宮代で共に暮らし共に創る
講演会」



「ゆっくりおしゃべり食事会」
第5回（3/26）の様子

VI 2024年度“学生交流・共同学習支援”の実績報告

1. リレー・フォー・ライフジャパン川越2024

saipeでは、学生交流・共同学習支援の取組の1つとして、2015年度より、がん制圧に向けた世界共通のチャリティーイベント「**リレー・フォー・ライフ・ジャパン川越 (RFLJ川越)**」に4大学チームとして参加している。2020年度から2022年度は新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインでの活動となったが、2023年度からは現地での活動が再開された。2024年度は、2023年度に引き続き、**saipeメンバー**で埼玉医科大学の産婦人科医である**高橋幸子先生**監修のもと、「**6つのがんを防ぐ“HPVワクチン”を知る・考える・伝える**」をテーマとして、HPVワクチンや子宮頸がん検診などに関する啓発活動を行った。

【2024年度 活動概要】

○活動日時、場所：

- ・RFLオリエンテーション：2024年8月26日（月）17:00～19:30（Zoom）
- ・第1回活動（打ち合せ、学生交流）：2024年9月 2日（月）18:00～19:45（Zoom）
- ・第2回活動（打ち合せ、学生交流）：2024年9月10日（火）18:00～19:45（Zoom）
- ・第3回活動（打ち合せ、学生交流）：2024年9月18日（水）18:00～19:30（Zoom）
- ・第4回活動（打ち合せ、学生交流）：2024年9月27日（金）13:00～17:00（城西大学）
- ・RFLJ2024川越当日：2024年9月28日（土）9:30～20:00～29日（日）9:30～11:30（蓮馨寺）

○参加者：学生14名、教職員（saipeメンバー）10名

- ・埼玉県立大学：学生6名（大学院修士（看護学専修）1年1名、看護学科2年2名、理学療法学科1年1名、健康開発学科2年1名、1年1名）、教員1名
- ・埼玉医科大学：学生3名（医学部1年2名、保健医療学部理学療法学科2年1名）、教員3名、職員1名
- ・城西大学：学生5名（薬学研究科薬科学専攻2年1名、薬学研究科医療栄養学専攻1名、薬学科1年2名、薬科学科2年1名）、教員3名、職員1名
- ・埼玉県：職員1名（保健医療政策課）

○活動内容：HPVワクチンに関する新規リーフレットおよび埼玉県内自治体のキャッチアップ接種情報をまとめたWebサイト（<https://saipe-saitama-hpv-vaccine-information.my.canva.site/>）の作成、HPVワクチンに関するクイズを用いた**スタンプラリー**、医師・助産師による相談会、子宮頸がん検診に関する展示やユースクリニックの開催、**リレーウォーク・セルフウォークリレー（minpo）**など様々な活動を行った。

参加した学生からは、普段関わることのない**他大学や他学科の方と関わる**ことができ**嬉しかった**、大学ごとの**得意分野が違う事でバランス良く仕事内容を分担**する事ができた、**学んでいる分野が違うとさまざまな発想があって勉強になる**などと思ったなどの声が聞かれた。

これらのことから、本取組を通して**参加学生一人一人ががん患者さんと向き合い、患者さんに対して自分ができることについて考え、立案・実行する良い機会**となったこと、また**他大学・他学科の学生が連携しながら一つの目的を共有して活動**したことで**達成感と自信**に繋がったことがうかがえた。

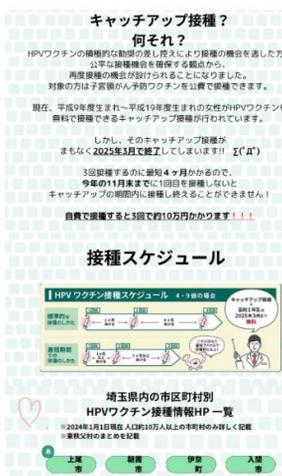
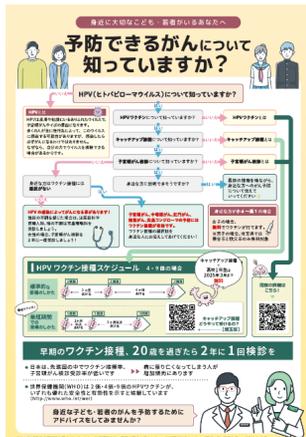


図 今回作成したリーフレット・Webサイト（左）とリレー・フォー・ライフジャパン川越2024の様子（右）

2. 彩の国思春期研究会

彩の国思春期研究会は埼玉県内で思春期の若者の性の健康を守る多職種専門家とそのたまごである大学生が共に学びあう場です。

①ユースクリニック、②HPVワクチンキャッチアップ接種「最終」啓発リーフレット作成を行いました。

①ユースクリニック

ユースクリニックとは思春期の若者が性について学びたい時や悩みを抱えた際、気軽に相談でき必要に応じて医療につなぐサポートをするところです。東京都では2023年より「わかさぼ」という取り組みが始まっており、埼玉県にもそのような場をつくりたい、と2023年6月から彩の国思春期研究会によるたんぼぼユースクリニックが埼玉県内各地（越谷市・川越市・さいたま市・本庄市・熊谷市・坂戸市・ふじみ野市・久喜市・鴻巣市等）で今年度末までに計50回以上開催されています。

4大学の学生や教員を含むボランティアスタッフが各地のユースクリニックで活動しています。2024年10月26日・27日には埼玉県立大学の学園祭（清透祭）においてユースクリニックが開催され、2日間でのべ560名の参加者を数えました。

併せて埼玉県が行う4大学連携事業の一環として**県職員に対し県庁ポータルサイト上でユースクリニック開催の情報提供が行われ**、県内で性教育の必要性やユースクリニックについての認知度が向上しました。

【2024年度 活動概要】

○活動日時、場所：埼玉県立大学学園祭・埼玉医科大学学園祭をはじめ埼玉県内各地で44回開催された。

○参加者：学生17名、教職員 7名（うちsaipeメンバー2名）

- ・埼玉県立大学：学生10名（看護学科8名・健康開発学科2名）、教員4名
- ・埼玉医科大学：学生5名（医学部2年1名、医学部3年2名、医学部5年生1名、保健医療学部理学療法学科2年1名）、研修医1名、教員1名
- ・城西大学：学生2名（薬学研究科薬科学専攻2年1名、薬学研究科医療栄養学専攻1名）
- ・埼玉県：職員1名（保健医療政策課）

○参加した学生からは、SRHR（Sexual Reproductive Health & Rights・性と生殖の健康と権利）と**包括的性教育の内容をわかりやすく展示し、多くの来客に楽しんで情報に触れてもらうことができた**ことに対する満足感を得ることができました。多職種の専門家やそれを目ざす大学生どうしがつながり、交流することが出来たことは2025年2月に行った②の取り組みへとつながりました。

②HPVワクチンキャッチアップ接種「最終」啓発リーフレット作成

彩の国思春期研究会とともに活動する埼玉県立大学サークルLUNAの学生が作成したリーフレットに対し埼玉医科大学産婦人科医高橋幸子（彩の国思春期研究会）が医療監修を行い、「**2025年の3月中に接種することで1年間接種期間が延長される**」という情報提供が**4大学や県内の行政機関を通して**行われました。



ユースクリニックとは医学的知識を駆使できる専門家たちのための活動です。

YOUTH CLINIC

ユースクリニック

★サッコ先生の講演会
「自分の人生を自分でつかみ取る。心と体を守る方法」
10/27(日)13:00~13:40 会場105 主催50名 抽選5名

日程 2024年10月26日(土)・10月27日(日)
時間 10:00~16:30
場所 費120
料金 無料

相談コーナー
◆無料相談
◆無料検査OK 検査結果も守ります
◆県立大学、市の医師会が共同で提供する無料検査
※検査内容：淋菌、衣原体、梅毒、HIV
※検査結果は個人で受け取り、結果は1週間程度に届きます。

ワークショップ
◆題目：SRHR、性と生殖の健康と権利
◆に性トラブル、避妊
◆コンドームワークショップ
◆コンドーム着用でデマを渡った演習

お問い合わせ先
埼玉県立大学 地域連携センター
☎048-973-4114 関 edc@apu.ac.jp



平成9年度～20年度生まれで
子宮頸がんワクチンの接種を
考えている方へ

【厚生労働省】
電話番号：0120-469-2889
受付時間：平日9時～17時(土曜、日曜、祝日、年末年始は除く)

【自治医科大学付属さいたま医療センター(産婦人科)】
外来予約受付：048-788-2788
【埼玉医科大学病院(産婦人科)】
産婦人科からの紹介

作成：埼玉県立大学 サークルLUNA

図 埼玉県立大学学園祭（清透祭）ユースクリニックの様子とHPVワクチンキャッチアップ接種最終のお知らせ

3. トークイベント

共同学習事業の取り組みの1つとして、地域における豊かな暮らしの実現に向けて、医療・福祉・建築やその連携について新たなビジョンを提示する実践者をゲストに迎え、**ゲストによるショートレクチャーを題材に4大学の学生が意見交換を行うトークイベント**を例年行っている。

今年度は、幸手市にあるご自身のクリニックの隣にサロンをオープンされた歯科医の高柳篤史先生と、その設計を担当された倉林貴彦先生をゲストに迎え、当該のサロンを会場として開催した。

高柳歯科医院のサロンは、歯科診療を行う一方、予防歯科の第一線で研究をされてきた高柳篤史先生が、家庭環境や社会環境にアプローチする歯科医療に向けて構想された場所である。生活者目線と科学的根拠に基づくセルフケアのサポートを目指す「はみがき学の会」の拠点でもある。セルフケア、支え合う関係、ケアの専門的知識との接点が暮らしの中に自然にある状態を支援する、新しい医療への展望が窺える。

設計を担当した倉林貴彦先生は、これまでもケアのあり方に革新を与えるような施設の設計に携わってこられた建築である。サロンの建築は高柳先生のビジョンの具体化に向けて設計された。

講師の先生方のレクチャーとグループワークを通じて、暮らしの中にケアがあること、そのためのアプローチ、建築・空間デザインの可能性などについて4大学の学生が、学び合う機会として企画した。

【開催概要】

テーマ：「暮らしの中にケアを編む ～歯科医がつくったサロンでともに学び・考える～」

日時：2025年3月9日（日） 13:30～17:00（予定では16:30）

会場：高柳歯科医院 サロン（幸手市）

講師：高柳篤史先生（高柳歯科医院院長、東京歯科大学衛生学講座 客員教授、日本大学松戸歯学部 障害者歯科学講座兼任講師）

倉林貴彦先生（倉林貴彦建築設計事務所、日本工業大学 建築学科 非常勤講師）

参加者：学生 計11名 埼玉県立大学 看護学科 4年生 1名

日本工業大学 建築学科 1年 2名/ 2年1名/ 3年7名 計10名

教員 1名（埼玉県立大学 看護学科） 高柳歯科医院職員 1名（歯科衛生士）

運営：勝木祐仁・三本松陽子（日本工業大学）

当日はまず、高柳先生から「暮らしからアプローチする口腔保健」のタイトルで、サロン開設の背景でもある、口腔保健における暮らしからのアプローチの必要性についてお話しいただいた。その後、高柳先生のレクチャーについての討議、コーヒープレイクを経て、倉林先生から「「幸手のはなれ」※の設計について」のタイトルで、設計の過程における高柳先生とのやり取り、敷地や地域環境の捉え方、それらを踏まえた設計の考え方についてお話しいただいた（※ 建築雑誌掲載時における当該のサロンの名称）。

最後に行われた全体討議において、看護学科の学生からは、普段、**人がどう生きたいかを中心にケアについて考えているが、倉林先生のお話から、建築も同じように考えるのだという発見**があったとの感想があった。建築の学生からは、「高柳先生がお話くださった**社会的健康は建築分野とつながる**と感じた」、「医療者など他分野の人も含め、**関係者を巻き込みながら進める設計のプロセスに可能性を感じた**」、「まちづくりの取り組みに関わる経験はあったが、**医療・福祉の視点を含めて考えるのは初めてで新鮮だった**」などの感想があった。

医療を学ぶ学生と建築を学ぶ学生が、歯科医と建築家のレクチャーと学生間の討議を通じて、**人の暮らしを支え、豊かにすることについて新たな視点や学びを得ることができたようであった。**

なお、本イベントの告知開始が今年度の授業終了後の期間であったため、周知が難しく、日工大以外の参加学生が1名のみであった。次年度以降、適切な開催時期及び告知時期を見極めて企画を進めたい。



高柳先生のレクチャーの様子



倉林先生のレクチャーの様子



グループワーク後の発表の様子

Ⅶ 学術活動の実績報告

1. 日本保健医療福祉連携教育学会 第17回学術集会 をall埼玉で開催

「日本保健医療福祉連携教育学会第17回学術集会」が元saipeメンバーの新井利民（立正大学教授）を学術集会長、田口孝行（埼玉県立大学教授）・柴崎智美（埼玉医科大学教授）を副学術集会長、國澤尚子（埼玉県立大学教授）を実行委員長、saipeメンバーが実行委員となって、また、4大学が共催、埼玉県とsaipe意見交換会に参加している埼玉県内13職能団体が“後援”に入り、“all埼玉”で開催した。

参加者は200名、一般演題発表は54演題が集まり、盛況に行われた。saipe企画、およびsaipeメンバーによる報告・発表は下記の通りである。



- ・シンポジウムⅠ：専門職連携教育（IPE）の地域社会への展開 ～IPEからIPWへ～
座長：柴崎智美（埼玉医科大学）、シンポジスト：田口孝行（埼玉県立大学）
- ・教育講演Ⅰ：空間デザインによる患者・利用者の「暮らし」と「癒し」
講演：勝木祐仁（日本工業大学）
- ・市民公開シンポジウム：災害時の大問題～「おしっこ・うんち」があなたの命を救う～
シンポジスト：小川孔美（埼玉県立大学）
- ・ランチタイムミニ講座：埼玉県におけるIPW（職能団体との連携）：saipeの活動
講師：古屋牧子（城西大学）
- ・“saipe卒業生の声” 動画放映
企画：金田光平（埼玉医科大学）／吉村基宜（埼玉県立大学）
- ・ワークショップ：専門職をキャラ化しよう～楽しい職種理解の深め方～
企画：米岡裕美（埼玉医科大学）、FT：金田光平氏、勝木祐仁氏、小糸寿美氏、古屋牧子氏



The 17th Congress of Japan Association for Interprofessional Education

日本保健医療福祉連携教育学会 第17回学術集会 in 彩の国

～「すべての人の<生活>」を支える連携・協働～

会期：2024年 **11月10日(日)**

会場：**埼玉県立大学** (埼玉県越谷市三野宮820) (最寄り駅：東武スカイツリーラインせんげん台駅)

参加費：会 員：事前登録 (5,000円) 当日 (7,000円)
一 般：事前登録 (6,000円) 当日 (8,000円)
学 生：事前登録 (1,000円) 当日 (2,000円)

事前参加登録期間
7/15～10/21終了

※埼玉県立大学は、フジカラー賞（建築界のノーベル賞）を受賞した山手建築協会の代表建築です

シンポジウムⅠ (9:40-11:00)

・専門職連携教育（IPE）の地域社会への展開 ～IPEからIPWへ～
李 範賢 氏(西大)・井出成美 氏(東大)・田口孝行 氏(埼玉立大)

シンポジウムⅡ (14:00-15:30)

・災害時の生活支援と専門職連携
新井利民 氏(立正大)・西井一宏 氏(福井大)・酒井郁子 氏(東大)

教育講演Ⅰ・Ⅱ (11:10-12:00)

・空間デザインによる患者・利用者の「暮らし」と「癒し」
勝木祐仁 氏(日本工業大)

・災害現場の生活支援において求められる保健医療福祉の連携
國崎秀治 氏(オプティマ)

市民公開シンポジウム (11:10-12:30)

・災害時の大問題～「おしっこ・うんち」があなたの命を救う～
埼玉埼玉南専門職連携推進ネットワーク

シンポジウム&ワークショップ (14:00-15:50)

・自宅を訪問する活動で何に注意するか？
JAYPE/IPW推進委員会

ワークショップ (14:00-15:50)

・専門職をキャラ化しよう～楽しい職種理解の深め方～
米岡裕美 氏(埼玉医科大学)

特別講演 (16:00-16:40)

・地域包括ケアで必要とされる連携実践
田中 道氏(埼玉立大)

一般演題発表
(ポスター)
全54演題
(13:00～13:50)

学術集会長：新井利民（立正大学）
副会長：田口孝行（埼玉県立大学）
柴崎智美（埼玉医科大学）
実行委員長：國澤尚子（埼玉県立大学）

主催：日本保健医療福祉連携教育学会
共催：埼玉県立大学、埼玉医科大学、城西大学、日本工業大学
後援：埼玉県、埼玉県社会福祉協議会、埼玉県医師会、埼玉県歯科医師会、埼玉県薬剤師会、埼玉県看護協会、埼玉県理学療法士会、埼玉県作業療法士会、埼玉県栄養士会、埼玉県社会福祉士会、埼玉県公認心理師協会、埼玉県介護支援専門員協会、学校法人聖学院メディカルアカデミー、学校法人聖学院埼玉医療福祉専門学校、立正大学社会福祉学部

運営事務局：
〒343-8540 埼玉県越谷市三野宮820番地
埼玉県立大学 専門職連携教育研修センター内
E-mail: ipe-kenstu@spu.ac.jp
TEL・FAX: 048-973-4190 (直通)

学術集会ホームページ <http://17thjaipe.kenkyukai.jp/special/?id=43426>

◆saipeメンバー 一般演題発表者（筆頭）

- ・村田 勇（城西大学）
- ・善生まり子（埼玉県立大学）
- ・野口 祐子（日本工業大学）
- ・阪下 竜也（埼玉県）
- ・吉村 基宜（埼玉県立大学）
- ・小池 啓子（埼玉医科大学）
- ・柴崎 智美（埼玉医科大学）



saipeの取り組み演題が理事長賞を受賞

「「彩の国連携力育成プロジェクト」ならびにそこから発展した埼玉県内の様々な取組

代表：阪下竜也（埼玉県庁保健医療部保健医療政策課）

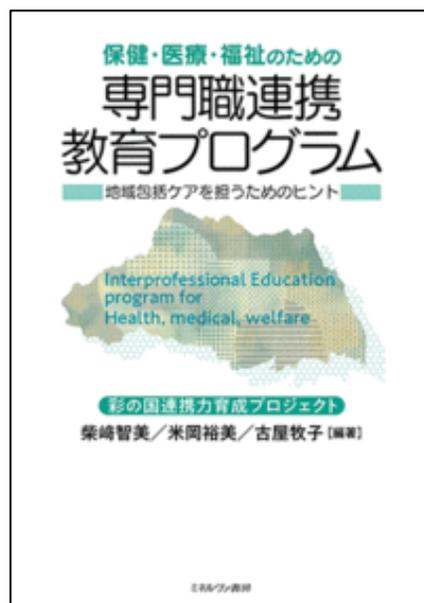
・P2-7 「埼玉県庁採用2・3年目保健師研修における「キャラ化ワークショップ」の実践」



2. 学会報告・発表等（2024年度）

● 書籍

- 1) 「保健・医療・福祉のための専門職連携教育プログラム」
第1版2冊増刷（ISBN：9784623085538）
柴崎智美，古屋牧子，米岡裕美 編。ミネルヴァ書房，2025



● 論文

- 1) 認知症ケア 2024冬：42-49（2024.12）
認知症ケア現場における多職種連携 「職種間・職員間の連携を円滑にするファシリテーション」
小川孔美（埼玉県立大学）
- 2) 理学療法 41（7）：643-656,（2024.7）
「多職種連携実践（IPW）および多職種連携教育（IPE）の今とこれから」
田口孝行、吉村基宜（埼玉県立大学）
- 3) 城西大学 教職課程センター紀要（9）：15-27（2025.3）
「彩の国連携力育成プロジェクトにおけるオンラインシステムを利用した多職種連携教育（チーム演習）」
「Effectiveness of interprofessional education using online system on the Saitama interprofessional education」
村田勇、古屋牧子、堀井徳光、岩田直洋、大嶋繁、水野文夫、高尾浩一、小糸寿美、矢島克彦、君羅好史、五十嵐庸（城西大学）、柴崎智美（埼玉医科大学）、田口孝行（埼玉県立大学）、勝木祐仁（日本工業大学）、上田秀雄（城西大学）

● 学会発表

1. 第56回日本医学教育学会大会（2024.8.9-10 東京都板橋区）
 - 1) 「心理的安全性を保ちつつ職種理解を深める手法：「キャラ化ワークショップ」の効果と留意点」
Understanding professions with psychological safety: Effects of the characterization workshop
米岡裕美（埼玉医科大学）、柴崎智美（埼玉医科大学）、田口孝行（埼玉県立大学）、古屋牧子（城西大学）、勝木祐仁（日本工業大学）、金田光平（埼玉医科大学）

● 学会発表（つづき）

1. 第56回日本医学教育学会大会（2024.8.9-10 東京都板橋区）

2) 「暮らしを支える連携力育成IPEの意義と今後の展望」

The Significance and Future Prospects of the IPE for Developing Cooperative Capabilities that Support Lifestyles

柴崎智美（埼玉医科大学）、古屋牧子（城西大学）、田口孝行（埼玉県立大学）、
勝木祐仁（日本工業大学）、金田光平（埼玉医科大学）、米岡裕美（埼玉医科大学）

2. 日本保健医療福祉連携教育学会 第17回学術集会（2024.11.10 越谷市）

1) P1-6「オンライン演習による多職種連携教育の効果」

村田 勇、古屋牧子、堀井徳光（城西大学）、柴崎智美（埼玉医科大学）、田口孝行（埼玉県立大学）、
勝木 祐仁（日本工業大学）、上田秀雄（城西大学）

2) P1-11「看護業務における個およびチームの安全行動を促すコミュニケーションロボットの効果」 善生まり子（埼玉県立大学）、中嶋吉男、山田勝之、小田島淳一（ラジエンスウエア株式会社）

3) P2-5「埼玉埼玉南専門職連携推進ねっとわーく」18年の取り組み ー地域の専門職の声を紡いだ 専門職連携実践の活動報告」

佐藤厚志（三郷市障がい福祉相談支援センターみさと中央）、土居努（やしお薬局）、
佐藤厚子（訪問看護ステーション夢）、新 智美（草加内科呼吸ケアクリニック）、
鈴木七奈（川口市芝西地域包括支援センター）、小林志保（あおぞら薬局）、
小川孔美（埼玉県立大学）

4) P2-6「建築分野と保健医療福祉分野の学生によるIPW演習の実践 ー日本工業大学と埼玉県立大学の 取り組みー」

野口祐子（日本工業大学）、田口孝行（埼玉県立大学）、白石充（バリアフリー住宅設計事務所）

5) P2-7「埼玉県庁採用2・3年目保健師研修における「キャラ化ワークショップ」の実践」

阪下竜也（埼玉県）、米岡裕美、柴崎智美（埼玉医科大学）、田口孝行（埼玉県立大学）

6) P2-13「埼玉県立大学が地域の子どもに開く「からだプログラム」の開発 ー多職種連携によるヘルス プロモーションの推進ー」

吉村基宜、高橋恵子、田村佳土枝、山田牧子（埼玉県立大学）、添田啓子（元埼玉県立大学）、
平田美佳（順天堂大学）

7) P4-11「多職種連携教育における医学科学生の学習活動を支える教員の役割と課題」

小池啓子、柴崎智美、米岡裕美、辻美隆、杉浦由佳、金田光平、清水夏生、森 茂久（埼玉医科大学）

8) P4-15「学内2学部連携合同IPE導入3年間の振り返り」

柴崎智美、米岡裕美、小池啓子、辻美隆、向田寿光、魚住尚紀、茅野秀一、加藤木利行、
森茂久（埼玉医科大学）

● 講演

1) 日本保健医療福祉連携教育学会 第17回学術集会 (2024.11.10 越谷市)

(1) 教育講演Ⅰ：空間デザインによる患者・利用者の「暮らし」と「癒し」

講演者：勝木祐仁（日本工業大学）

(2) 教育講演Ⅱ：災害現場の生活支援において求められる保健医療福祉の連携

司会：柴崎智美（埼玉医科大学）

講演者：園崎秀治氏（オフィス園崎）

(3) ランチタイムミニ講座：埼玉県におけるIPW（職能団体との連携）：saipeの活動

講演者：古屋牧子（城西大学）

● シンポジウム

1) 第56回日本医学教育学会大会 (2024.8.9-10 東京都板橋区)

(1) 「暮らしを支える連携力育成IPEの意義と今後の展望」

The Significance and Future Prospects of the IPE for Developing Cooperative Capabilities that Support Lifestyles

柴崎智美（埼玉医科大学）、古屋牧子（城西大学）、田口孝行（埼玉県立大学）、

勝木祐仁（日本工業大学）、金田光平（埼玉医科大学）、米岡裕美（埼玉医科大学）

2) 日本保健医療福祉連携教育学会 第17回学術集会 (2024.11.10 越谷市)

(1) シンポジウムⅠ：専門職連携教育（IPE）の地域社会への展開 ～IPEからIPWへ～

座長：柴崎智美（埼玉医科大学）

シンポジスト：田口孝行（埼玉県立大学）「実習施設と連携したIPEの地域展開」

(2) 市民公開シンポジウム：災害時の大問題～「おしっこ・うんち」があなたの命を救う～

シンポジスト：小川孔美（埼玉県立大学）「埼玉県立大学における災害時非常用物品備蓄と役割」

● ワークショップ

1) 日本保健医療福祉連携教育学会 第17回学術集会 (2024.11.10 越谷市)

(1) ワークショップ：専門職をキャラ化しよう ～楽しい職種理解の深め方～

進行：米岡裕美（埼玉医科大学）

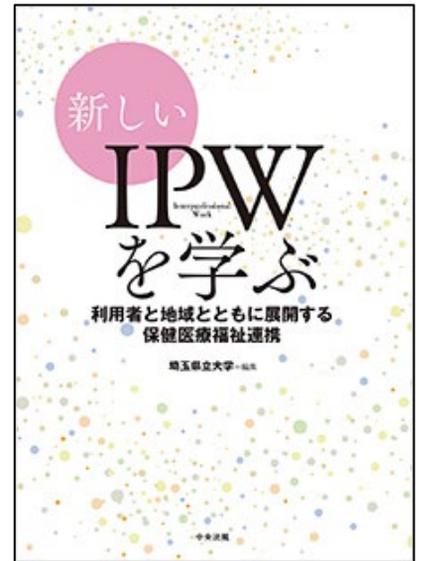
ファシリテータ：古屋牧子（城西大学）、勝木祐仁（日本工業大学）金田光平（埼玉医科大学）、

小糸寿美（城西大学）

(参考) 2024年度以前の学会報告・発表等 (抜粋)

● 書籍

- 1) 「新しいIPWを学ぶ—利用者地域とともに展開する保健医療福祉連携」
(ISBN: 978-4-8058-8464-5)
埼玉県立大学 (朝日雅也、國澤尚子、田口孝行 編集)。
中央法規, 2022



● 論文

- 1) 医学教育52 (3) : 227~233 (2021)
「動画視聴と省察を用いた医学部におけるバーチャル他職種業務見学実習」
「Practical Training in Pharmaceutical Rehabilitation Services at Medical School Using Video and Reflection」
柴崎由佳, 柴崎智美, 金田光平, 大西京子, 杉山智江, 荒木隆一郎, 川村勇樹, 佐藤寛栄, 岸野亨, 小峰美仁, 倉林均, 米岡裕美, 椎橋実智男, 石橋敬一郎, 森 茂久 (埼玉医科大学)
- 2) 地域と大学 城西大学・城西短期大学地域連携センター紀要 (1) : 22-27 (2021)
「埼玉県における地域住民の質の高い暮らしを目指した専門職連携教育 — 彩の国連携力育成プロジェクト (SAIPE) 」
「Interprofessional education (IPE) with the philosophy of “realizing high-quality lifestyles for local residents” in Saitama prefecture - Saitama Interprofessional Education Project (SAIPE)」
古屋牧子, 上田秀雄, 白幡晶, 大嶋繁, 村田勇, 高尾浩一, 小糸寿美, 堀由美子, 水野文夫, 岩田直洋, 細谷治, 小林大介 (城西大学)
- 3) 医学教育54 (6) : 642-645 (2023)
「COVID-19 パンデミックの経験を活かした対面・バーチャルのハイブリッド型チーム医療実習の実践」
柴崎智美, 杉山智江, 柴崎由佳, 金田光平, 川村勇樹, 佐藤寛栄, 石橋敬一郎, 菅理江, 米岡裕美, 森茂久 (埼玉医科大学)
- 4) 埼玉医科大学雑誌45 (2) : 84-86
「地域住民の暮らしを支える専門職連携教育の効果に関する研究」
柴崎智美 (埼玉医科大学)

● 学会発表

1. 第78回日本公衆衛生学会総会 (2019.11 郡山市)
「地域基盤型IPWのコンピテンシーとヒューマンケアマインド」
柴崎智美, 高橋幸子, 金田光平, 松本佳祐, 植村真喜子, 本橋千恵美, 田口孝行, 森茂久, 本多麻夫, 萱場一則
2. 第54回日本医学教育学会大会 (2022.8.5-6 高崎市)
 - 1) 「空間やモノ、体験、関係性のデザイン」に関する教材開発
柴崎智美, 米岡裕美, 金田光平, 高橋幸子, 柴崎由佳, 杉山智江, 石橋敬一郎, 森茂久 (埼玉医科大学), 田口孝行 (埼玉県立大学), 勝木祐仁 (日本工業大学)

● 学会発表（つづき）

2. 第54回日本医学教育学会大会（2022.8.5-6 高崎市）

2) 「オンラインでの地域基盤型専門職連携実習の取り組み」

金田 光平, 柴崎智美, 高橋幸子, 本橋千恵美, 米岡裕美, 柴崎由佳, 荒木隆一郎, 石橋敬一郎, 杉山智江, 植村真喜子, 鈴木郁子, 丸木和子, 森 茂久（埼玉医科大学）

3) 「バーチャル他職種業務見学実習での他職種へのインタビューにおける

学生の興味関心についての検討」

柴崎智美, 柴崎由佳, 杉山智江, 佐藤寛栄, 荒木隆一郎, 大西京子, 石橋敬一郎, 森茂久（埼玉医科大学）。

● 講演等

1) 埼玉東上地域大学教育プラットフォーム共同FDSD（2021.10 オンライン）

ICTを活用した遠隔授業の実践 実施報告

「城西大学の事例紹介 彩の国連携力育成プロジェクト（SAIPE）における事例紹介
～多職種研修会および4 大学学生による大規模演習について～」

講演者：村田 勇（城西大学）

2) 第80回日本公衆衛生学会総会（2021.12.22 東京）

シンポジウム30

「彩の国連携力育成プロジェクトにおける連携力育成の取組」

講演者：柴崎智美（埼玉医科大学），田口孝行（埼玉県立大学）

3) 第8回医療介護フォーラム（2021.1 川越市）

「IPW（多職種連携）の取り組み報告」

講演者：柴崎智美（埼玉医科大学）

4) 第1回地域包括ケア学会（2019.12 東京）

シンポジウム②

「住民の質の高い暮らしを支える連携力の育成～彩の国連携力育成プロジェクトによる連携教育～」

講演者：柴崎智美（埼玉医科大学）

5) 第10回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（2019.5 京都市）

教育講演（総合診療・家庭医療コアシリーズ）

「地域包括ケアシステムで働く未来の医療者育成としての多職種連携教育の現状」

講演者：柴崎智美, 高橋幸子（埼玉医科大学），田口孝行, 新井利民（埼玉県立大学），
細谷治（城西大学），勝木祐仁（日本工業大学）



< Sai-UPPs登録 職能団体（2024年度現在） > ※ 50音順

※ (<https://>) ホームページURL

埼玉県医師会 (<https://www.saitama.med.or.jp/>)

埼玉県栄養士会 (<https://www.saitamaken-eiyoushikai.or.jp/>)

埼玉県介護支援専門員協会 (<https://saitama-cm.com/>)

埼玉県看護協会 (<https://www.nurse-saitama.jp/>)

埼玉建築士会 (<https://www.ksaitama.or.jp/>)

埼玉県公認心理師協会 (<https://saccp.jp/>)

埼玉県歯科医師会 (<https://www.saitamada.or.jp/>)

埼玉県社会福祉士会 (<https://saitama1717csw.jp/>)

埼玉県薬剤師会 (<https://saiyaku.or.jp/>)

埼玉県理学療法士会 (<https://saitama-pt.or.jp/>)

※ Sai・・・Saitama、彩の国

※ UPPs・・・University（大学）、Prefecture（県）、Professionals（職能団体）

2024年度 彩の国連携力育成プロジェクト (saipe)

(<https://www.saipe.jp/>)

活動報告書

発行日 2025年4月

企画・発行 埼玉県立大学 埼玉医科大学 城西大学 日本工業大学 埼玉県

代表校連絡先：埼玉県立大学 専門職連携教育研修センター

〒343-8540 埼玉県越谷市三野宮820
